

# 禪城寺・宇保・神田北遺跡

2002年3月

大阪府教育委員会



# 禪城寺・宇保・神田北遺跡

2002年3月

大阪府教育委員会

## はしがき

池田市は北摂山地を貫流した猪名川が平野部に出てきたところに位置し、交通の要衝として古くから人々の活動の舞台となっていました。旧石器時代にはじまり、各時代の遺構・遺物が市内の各所で発見されています。古墳時代には池田茶臼山古墳や娘三堂古墳など全国的に有名な古墳も築かれています。鎌倉時代以降になると池田氏が台頭し、その本拠地である池田城は地域のシンボルとして市民に親しまれています。

大阪府教育委員会は、都市計画道路池田・神田線道路拡幅工事に伴って、平成9年度から12年度にかけて禅城寺・宇保・神田北遺跡の発掘調査を実施いたしました。南北850mの範囲で25地点を調査したところ、旧石器時代のナイフ型石器、弥生時代の溝・古墳時代の土坑、奈良・平安時代の土坑・溝、中世の柱穴跡・溝などを検出し多くの新知見を得ることができました。今後地域史を解明していく上で貴重な資料になるものと確信しております。

調査に際しては、多くの方々にご協力をいただいたことに厚く感謝いたしますとともに、今後とも大阪府の文化財保護行政に一層のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年3月

大阪府教育委員会

文化財保護課長 小林 栄

## 例　　言

1. 本書は、都市計画道路池田・神田線拡幅工事に先立ち、大阪府土木部の依頼により大阪府教育委員会が実施した禅城寺・宇保・神田北遺跡発掘調査の報告書である。
2. 調査は文化財保護課技師山上弘、補宣田佳男、泉本知秀を担当者として平成9年度から12年度にかけて実施した。引き続き平成13年度に整理作業を実施した。
3. 本書に掲載した遺物写真は、有限会社阿南写真工房に委託して撮影した。
4. 本書の執筆・編集は調査担当者の協力のもと文化財保護課技師藤田道子が行った。
5. 発掘調査および本書作成に要した経費は、全額大阪府土木部が負担した。
6. 発掘調査の実施にあたっては大阪府池田土木事務所、池田市教育委員会、他地元関係者の方々にご協力いただいた。

# 本文目次

第1章 はじめに	
第1節 調査に至る経過	1
第2節 各遺跡の概略	1
第3節 調査の方法	3
第2章 遺跡の位置と環境	
第1節 遺跡周辺の地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査成果	
第1節 基本層序と調査の概観	6
第2節 調査成果	12
第4章 まとめ	39

# 挿図目次

第1図 調査地と周辺遺跡図	2
第2図 禅城寺遺跡トレンチ配置図・土層断面柱状模式図	7～8
第3図 宇保遺跡、神田北遺跡トレンチ配置図・土層断面柱状模式図	9～10
第4図 禅城寺97-3区全体平面図・断面図、落ち込み1断面図	13
第5図 禅城寺97-1、3区、98-3、5、6、7区出土遺物実測図	14
第6図 禅城寺00-1区全体平面図・断面図、上坑断面図	16
第7図 禅城寺00-1区、99-1区出土遺物実測図	17
第8図 禅城寺99-1区全体平面図・断面図	18
第9図 禅城寺98-3区全体平面図・断面図、溝1、3土層断面図 溝1遺物出土状況図	19～20
第10図 禅城寺98-5区全体平面図・断面図	22
第11図 禅城寺98-6区全体平面図・断面図、ピット断面図 ピット11、15遺物出土状況図	25～26
第12図 禅城寺98-7区全体平面図・断面図	27
第13図 宇保00-1、2区全体平面図	28
第14図 宇保00-1、2区、99-1、3区出土遺物実測図	29

第15図	宇保99-1区全体平面図	30
第16図	宇保99-1区土坑6遺物出土状況平面図・断面図	30
第17図	宇保99-1区土坑5遺物出土状況平面図・断面図	31
第18図	宇保99-1区土坑7遺物出土状況平面図・断面図	31
第19図	宇保99-2区土坑1遺物出土状況平面図・断面図・土層断面図	32
第20図	宇保99-2区全体平面図・断面図	33
第21図	宇保99-2区出土遺物実測図	34
第22図	宇保99-3区全体平面図・断面図	35
第23図	神田北99-1、4区、98-1区出土遺物実測図	36
第24図	神田北99-2区全体平面図・断面図	37
第25図	調査地周辺地域地形分類図	40

## 表 目 次

第1表	トレンド名新旧対照表	4
第2表	禪城寺00-1区土坑一覧表	15
第3表	禪城寺98-6区ピット一覧表	24
第4表	時代別 遺構・遺物検出状況	39

## 図 版 目 次

図版1-1	禪城寺97-1区全景（南から）
図版1-2	禪城寺97-2区全景（南から）
図版1-3	禪城寺97-3区全景（北から）
図版2-1	禪城寺98-2区北半部全景（北から）
図版2-2	禪城寺98-4区北半部全景（南から）
図版2-3	禪城寺98-4区南半部全景（南から）
図版3-1	禪城寺98-3区南半部全景（南から）
図版3-2	禪城寺98-3区溝1内土器出土状況（西から）
図版3-3	禪城寺98-3区溝1埋土上層断面
図版4-1	禪城寺98-5区全景（南から）
図版4-2	禪城寺98-7区全景（南から）

- 図版4-3 禅城寺98-5区大溝埋土土層断面
- 図版5-1 禅城寺98-6区全景（南から）
- 図版5-2 禅城寺98-6区全景（北から）
- 図版5-3 禅城寺98-6区ピット11土層断面、遺物出土状況
- 図版5-4 禅城寺98-6区ピット15土層断面、遺物出土状況
- 図版5-5 禅城寺98-6区ピット9、10土層断面
- 図版5-6 禅城寺98-6区ピット6土層断面
- 図版6-1 禅城寺00-1区全景（南から）
- 図版6-2 禅城寺00-1区土坑6、7遺物出土状況
- 図版6-3 禅城寺00-1区土坑1、2、3、4、8遺物出土状況
- 図版7-1 禅城寺99-1区全景（北から）
- 図版7-2 禅城寺00-2区全景（北から）
- 図版7-3 禅城寺00-3区全景（南から）
- 図版7-4 宇保00-1区全景（北から）
- 図版7-5 宇保00-2区全景（南から）
- 図版8-1 宇保99-1区全景（南から）
- 図版8-2 宇保99-1区北半部（北から）
- 図版9-1 宇保99-1区土坑5遺物出土状況
- 図版9-2 宇保99-1区上坑6遺物出土状況
- 図版9-3 宇保99-1区土坑7遺物出土状況
- 図版10-1 宇保99-2区全景（北から）
- 図版10-2 宇99-2区土坑1遺物出土状況
- 図版10-3 宇保99-3区全景（南から）
- 図版11-1 神田北99-1区全景（北から）
- 図版11-2 神田北99-2区全景（南から）
- 図版11-3 神田北99-3区全景（南から）
- 図版11-4 神田北99-4区全景（北から）
- 図版12 禅城寺98-3・6区・宇保99-1・2区出土土器
- 図版13-1 禅城寺97-3、98-3区・宇保99-1～3区・神田北98-1、99-1区出土須恵器
- 図版13-2 禅城寺98-7区・宇保00-1区・神田北99-1・4区出土須恵器
- 図版14-1 神田北98-7区・禅城寺99-1区・宇保99-2区出土磁器
- 図版14-2 禅城寺00-1区出土土器
- 図版14-3 宇保99-2区出土打製石鐵
- 図版14-4 神田北99-1区出土ナイフ型石器

## 第1章 はじめに

### 第1節 調査に至る経過

都市計画道路神田池田線は、国道176号線を北端の起点とし、阪急宝塚線と交差して南下し、国道171号線に至る池田市中心部を南北に縦断する道路である。この道路に歩道設置計画が持ち上がり、大阪府土木部の依頼を受け大阪府教育委員会文化財保護課が試掘調査をおこなったのは平成8年7月末～8月である。試掘調査対象地の北半部は、周知の埋蔵文化財包蔵地である禪城寺遺跡・宇保遺跡の隣接地にあたり、南部は神田北遺跡の範囲内に含まれる。

試掘調査は、歩道設置に伴う道路拡幅予定地総延長約850mに対し、6ヶ所のトレーナーを設けて実施した。その結果すべてのトレーナーから遺構・遺物が検出され、本府教育委員会文化財保護課は、本府土木部に当該地区の工事に先立って事前に発掘調査が必要であると回答した。周知の埋蔵文化財包蔵地以外であらたに遺構・遺物が検出された箇所は、文化庁長官あてに遺跡発見通知が提出され、隣接する禪城寺遺跡・宇保遺跡の遺跡範囲が東側に拡大する結果となった。

試掘調査の結果を受け、平成8年3月に大阪府土木部から発掘調査依頼が出された。本府教育委員会文化財保護課は、本府土木部交通政策課と協議を重ね、調査を開始したのは平成10年1月である。

### 第2節 各遺跡の概略

今回歩道設置に伴い調査が実施されたのは、北から順に禪城寺・宇保・神田北遺跡である。次に、3遺跡の概略を説明したい。

#### [禪城寺遺跡]

行政区画では池田市城南二丁目、宇保町に該当し、東西300m、南北300mの範囲を有す。遺跡を貫く形で阪急宝塚線が通過している。昭和62年にマンション建設工事中に中世の瓦が発見されたことにより遺跡として周知された。その後の発掘調査結果により、弥生時代から中世に至る遺物が出土する集落跡であることが判明した（注1）。

池田市教育委員会により実施された主な発掘調査結果によると、出土遺物は弥生時代後期、飛鳥時代（7C代）、中世の3時期のものが多い。1998年度に実施された遺跡中央部で実施された調査（注2）では小規模の面積ながら、飛鳥時代（7C代）の竪穴住居跡4基、掘立柱建物跡1基を検出している。

遺跡名の由来になっている禪城寺と字が違うが、善城寺は文献史料「坂上氏系図」に登場する（注3）。坂上氏系図によると、宇保町～宝町一帯は平安時代中期土師氏により開発され、その後院政期には呂庭荘として皇室領となる。鎌倉時代には開発領主土師氏の後胤が善城寺別当に就任したことが記されている。在地の土豪が土地の支配権を確保するため寺社の力を利用した例と考えられる。この善城寺はいつ、どこに創建されたか詳細は不明であるが、宇保町を含む呂庭の里



- |            |             |            |           |             |            |
|------------|-------------|------------|-----------|-------------|------------|
| 兵庫県川西市     | 9. 北村遺跡     | 18. 森木遺跡   | 26. 鎌塚古墳  | 36. 天神遺跡    | 44. 麻田蒲陣屋跡 |
| 1. 宋根寺魔寺   | 10. 北園遺跡    | 大阪府池田市     | 27. 門川遺跡  | 37. 豊島南遺跡   | 45. 宝池遺跡   |
| 2. 宋根遺跡    | 11. 大庭お塚    | 19. 池田城跡   | 28. 神山南遺跡 | 38. 住吉宮の前遺跡 | 46. 箕輪遺跡   |
| 3. 加茂遺跡    | 12. 横ヶ丘遺跡   | 20. 鉢室経塚   | 29. 夏潮池遺跡 | 39. 宮の前西遺跡  | 47. 能勢街道   |
| 4. 宋根銅鐸出土地 | 13. 伊丹小学校遺跡 | 21. 梅塚経塚   | 30. 鈴塚北遺跡 | 40. 宮の前遺跡   | 48. 西国街道   |
| 5. 下加茂遺跡   | 14. 伊丹郷町    | 22. 鐘城寺遺跡  | 31. 鈴塚古墳  | (鶴池北遺跡)     | 49. 有馬道    |
| 6. 久代遺跡    | 15. 大阪空港A遺跡 | 23. 木保遺跡   | 32. 鈴塚南遺跡 | 大阪府豐中市      |            |
| 兵庫県伊丹市     | 16. 大阪空港B遺跡 | 24. 神田北遺跡  | 33. 二子塚古墳 |             |            |
| 7. 緑ヶ丘遺跡   | 17. 西桑津遺跡   | 25. 宇保猪名津彦 | 34. 犬塚古墳  | 41. 待兼山遺跡   |            |
| 8. 伊丹魔寺    |             | 神社古墳       | 35. 石横古墳  | 42. 鶴池西遺跡   |            |
|            |             |            |           | 43. 鶴池東遺跡   |            |

第1図 調査地と周辺遺跡図

にあったと思われる。

現在、阪急宝塚線より南に入ったところの住宅地の中に「宇保の観音さん」という小さなお堂があり、禪城寺と呼ばれている。寺の由来によれば、禪城寺はいったん廃絶し、復興したのは江戸時代前期であるという（注3）。昭和初期このお堂付近で、平安時代、南北朝時代の瓦片が採取されているが、寺との直接のかかわりは不明である。

#### 〔宇保遺跡〕

行政区画では池田市宇保町、八王子一丁目に該当し、東西200m、南北200mの範囲を有す遺物散布地である。出土遺物の詳細は明らかでないが、中世期のものを中心とするようである。

#### 〔神田北遺跡〕

行政区画では池田市神田一・二丁目、八王子…二丁目に該当し、東西400m、南北300mの範囲を有す。昭和50年、神田二丁目脇塚古墳付近で、縄文時代の石器を発見されたことを契機に、発掘調査が実施された（注4）。調査の結果、弥生時代の上坑、縄文時代の石器、弥生式土器、須恵器、土師器などの遺構・遺物が発見され、遺跡は縄文時代から中世に至る複合遺跡であることが判明した。縄文時代の遺構は検出されていないが、出土石器は、丹波産のチャートを用いた製品も含まれており、産地との交流を示すものとして注目されている。

その後、池田市教育委員会により実施された1988年の調査では、弥生時代後期の竪穴住居跡、土坑、また1993年度の調査では古墳時代、奈良時代、中世の掘立柱建物跡等が検出されている。

弥生時代の竪穴住居跡、土坑等の遺構、及び遺物はいずれも後期に属するものである。神田北遺跡は、弥生時代後期になって、新たに出現した集落の一つと考えられている。奈良時代、中世の掘立柱建物跡が検出されているが、中世の建物跡は禪城寺遺跡の項で記述したとおり呉庭荘と関連するものと思われる。

#### 参考文献

- (注1)『池田市埋蔵文化財発掘調査概報1989年度』(池田市教育委員会 1990年3月)
- (注2)『池田市埋蔵文化財発掘調査概報1998年度』(池田市教育委員会 1999年3月)
- (注3)『池田市史史料編①原始・古代・中世』(1967年3月31日)
- (注4) 富田好久他「神田複合遺跡について」『池田郷土史研究 第4号』(池田郷土史学会 1977)

#### 第3節 調査の方法

発掘調査は用地買収が済んだ北部から順に行われた。用地買収が済んだとはいえ、民家・駐車場などの入り口を確保した上で調査を進めるため、トレントは何ヶ所にも分断されたかたちとなつた。調査は盛土、旧耕土を重機で除去した後、一層づつ人力掘削により掘り下げ精査し、遺構・遺物の検出に努めた。標高はT. P.を使用した。

各年度のトレント名は、調査順に数字やアルファベット順でつけられている。しかし調査範囲

は、禪城寺・宇保・神田北の3遺跡にまたがっている。そこで、今回本報告を作成するにあたり、新たにトレント名を付け直した。新しいトレント名は、おのおのの遺跡内のトレントを調査年度ごとに北から南の順に数字をつけてあらわした。トレント名の新旧対照表は下のとおりである。

調査面積は禪城寺遺跡1,338.7m<sup>2</sup>、宇保遺跡277m<sup>2</sup>、神田北遺跡564.8m<sup>2</sup>となる。

遺跡名	調査区名	旧調査区名	担当者	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	各遺跡ごとの 調査面積 (m <sup>2</sup> )
禪城寺遺跡	9 7 - 1	9 7 - 1	山上	H10.1.20~2.18	165.2	
禪城寺遺跡	9 7 - 2	9 7 - 2	山上	H10.2.10~3.4	213.9	
禪城寺遺跡	9 7 - 3	9 7 - 3	山上	H10.3.4~3.24	100.7	
禪城寺遺跡	9 8 - 1	その1	泉本	H11.1.15~1.22	65.2	
禪城寺遺跡	9 8 - 2	その2	泉本	H10.12.15~H11.1.27	119.6	
禪城寺遺跡	9 8 - 3	その3	泉本	H11.1.5~1.14	212.2	
禪城寺遺跡	9 8 - 4	その4	泉本	H10.12.10~12.22	113.8	
禪城寺遺跡	9 8 - 5	その5-1	柳宣田	H11.1.27~2.3	37.5	
禪城寺遺跡	9 8 - 6	その5-2	柳宣田	H11.2.18~3.16	83.8	
禪城寺遺跡	9 8 - 7	その6-1	柳宣田	H11.2.3~2.9	59.7	
禪城寺遺跡	9 9 - 1	F区	泉本	H12.1.15~1.20	27	
禪城寺遺跡	0 0 - 1	A区	泉本	H13.1.17~1.26	69.4	
禪城寺遺跡	0 0 - 2	B区	泉本	H13.3.23~3.28	32	
禪城寺遺跡	0 0 - 3	C区	泉本	H13.3.23~3.28	38.7	1338.7
宇保遺跡	9 9 - 1	E区	泉本	H11.12.17~12.21	52.5	
宇保遺跡	9 9 - 2	G区	泉本	H12.1.6~1.14	30.6	
宇保遺跡	9 9 - 3	D区	泉本	H11.12.10~12.16	15.5	
宇保遺跡	0 0 - 1	D区	泉本	H13.2.27~3.16	103.6	
宇保遺跡	0 0 - 2	E区	泉本	H13.2.13~2.15	74.8	277.0
神田北遺跡	9 8 - 1	その7	柳宣田	H11.3.3~3.8	257.9	
神田北遺跡	9 8 - 2	その8	柳宣田	H11.2.8~2.10	59.4	
神田北遺跡	9 9 - 1	C区	泉本	H11.12.5~12.14	52.2	
神田北遺跡	9 9 - 2	H区	泉本	H12.1.18~1.28	49.4	
神田北遺跡	9 9 - 3	A区	泉本	H11.11.5~11.17	72.9	
神田北遺跡	9 9 - 4	B区	泉本	H11.11.19~12.3	73	564.8
面積合計					2180.5	2180.5

第1表 トレント名新旧対照表

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡周辺の地理的環境

調査対象地の3遺跡は猪名川左岸の低位段丘上に立地し、現在の池田市の中心部に隣接する。ここでは池田市を中心とした調査地周辺の地理的環境の概略を記す。

猪名川は北部の山地を出て、池田市木部町、川西市火打を抜け出たあたりから、右岸の兵庫県側に沖積地を形成する。川西市、伊丹市では段丘崖が明瞭に認められ、猪名川との間の沖積地に、自然堤防状の微高地が形成されている。

これに対し左岸の大坂府側では石澄川、箕面川、千里川などが次々と猪名川に合流する。猪名川にそぞぐこれらの河川は段丘面を開析し、池田市北部の五月丘丘陵ではせまい尾根の間に谷が入り込む複雑な地形を形成している。さらに開析された谷の堆積物により、台地の縁辺から外側に扇状地性緩斜面が形成されている。

今回の調査地が立地する低位段丘は宇保段丘と呼称され、猪名川左岸のなかで最も低位の段丘である。背後の五月丘丘陵が複雑な地形を呈するのに対し、宇保段丘は地表面平坦で、開析はほとんど受けていない。

### 第2節 歴史的環境

調査地周辺、おもに池田市域の遺跡の概略を記す。

旧石器時代 遺物が出土した遺跡として伊居太神社参道遺跡、宮の前遺跡、宮の前西遺跡があげられる。宮の前遺跡（第1図40、豊中市では螢池北遺跡と呼称する。）では国府形ナイフ形石器が出土している。いずれの遺跡も標高50～30mの段丘下位面に立地している。

縄文時代 石器、土器など少量の遺物の出土はみられるが、遺構は検出されていない。遺物の出土した遺跡は五月丘丘陵から猪名川沿いの沖積地まで分布している。

弥生時代 前期から存在する遺跡は木部遺跡であるが、出土する遺物は前期から後期までのものがある。詳細は不明である。池田市域で集落の様相が判明してくるのは中期からである。台地上に立地する宮の前遺跡は、住居跡、墓域がまとまって検出されている。大規模な集落の様相が判明しつつある。沖積地にも豊島南遺跡（第1図37）などが存在しているが規模は小さい。後期になると大集落宮の前遺跡は消滅し、小集落が増加する。住居跡など遺構が確認された遺跡としては、五月丘丘陵に池田城下層（第1図19）、低位段丘上では神田北遺跡（第1図24）が存在する。

古墳時代 前期古墳は池田茶臼山古墳、娘二堂古墳が存在する。前期段階では猪名川右岸、また左岸の豊中市域でも同等の古墳が築造されており、猪名川流域にいくつかの有力な勢力があったと推定される。中期に入ると池田市域には首長墓クラスの古墳が築かれなくなり、かわりに小規模な古墳のみとなる。これとは対照的に、猪名川右岸（宝塚市域）、左岸豊中市域では桜塚古墳

群にみられるように、首長墓群が盛行する。後期に入ると池田市域では、単独、あるいは2から3基を1単位とする小規模な古墳が丘陵部や、段丘上に存在するが、群集墳は形成されない。そして巨大な横穴式石室を持つ二子塚古墳（第1図33）、鉢塚古墳（第1図31）が丘陵縁辺に出現する。猪名川右岸や、左岸の豊中市域で群集墳が形成されているとの対称的である。

古墳時代の集落については宮の前遺跡や、豊島南遺跡で竪穴式住居跡が検出されているが、集落の規模等詳細は不明である。

歴史時代 池田市域は、律令制下のもとでは摂津国豊島郡に含まれていたと推定される。宮の前、豊島南、神田北遺跡では奈良時代の掘立柱建物が検出されている。寺院跡では白鳳・天平時代の瓦が採取された石積廃寺が存在するが、発掘調査はおこなわれていない。

中世には池田市域に呉庭荘、細川荘の2ヶ所の荘園が存在していた。神田北遺跡では中世期の掘立柱建物が検出されているが、皇室領として開発が進められていた呉庭荘と関係するものと推定されている。

## 第3章 調査成果

### 第1節 基本層序と調査の概観

今回の調査範囲は全長700m、北端と南端で現況地盤高の標高差は4mある。調査は4年間に渡り、25箇所のトレンチを設定して実施したため、土層断面は分断され、南北方向に連続して観察されたわけではない。また調査地一帯は市街化が早かった地域であり、遺物包含層および造構面が削平されたと思われる部分が多いと考えられる。そこで各トレンチの土層観察を整理し、共通点をさぐり、基本層序としてまとめた。この基本層序を踏まえて調査の概観をしたい。

#### 1. 基本層序

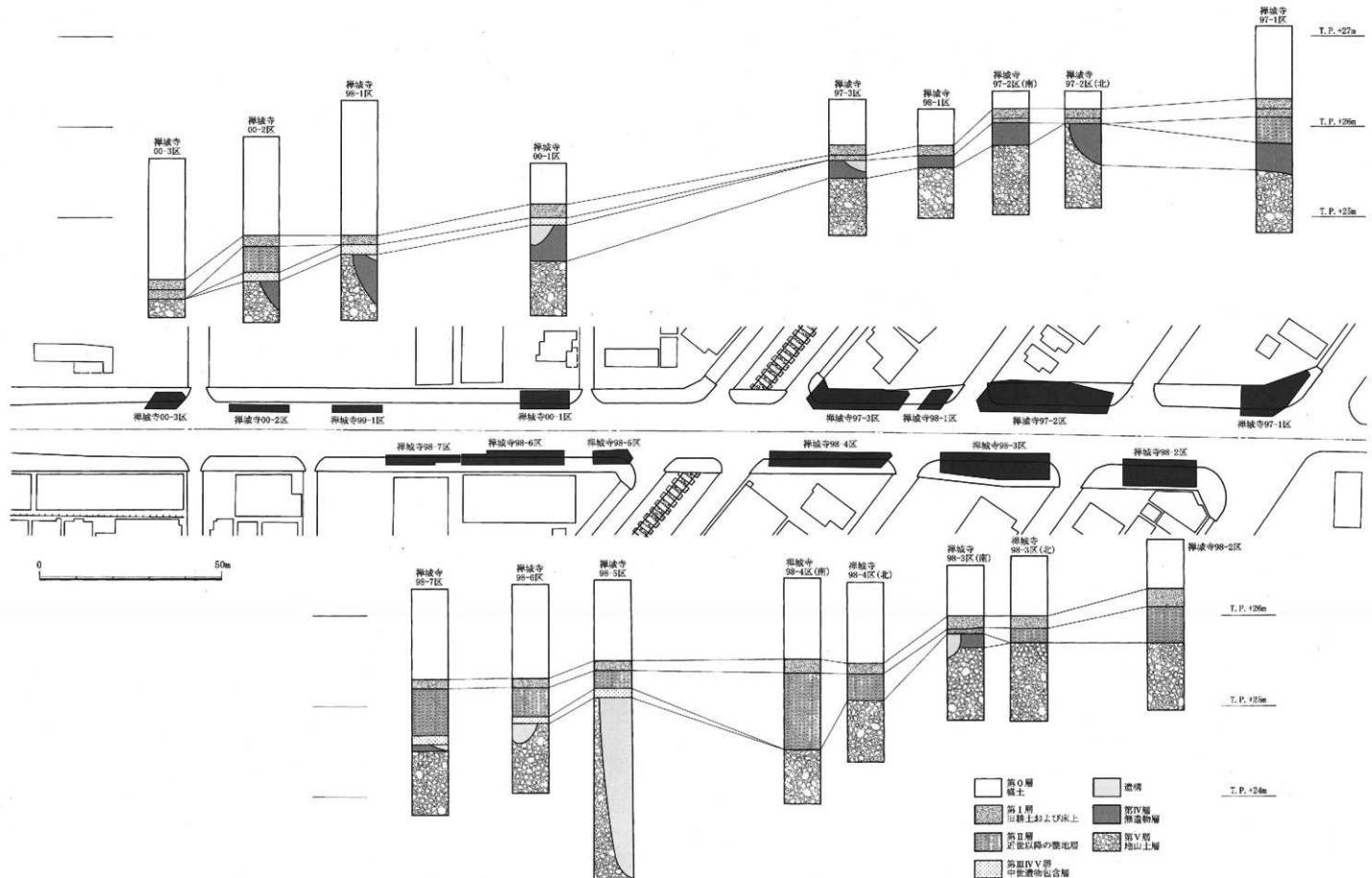
第0層 盛土 道路敷設に伴う現代盛土である。

第I層 IH耕土および床土 道路敷設前の近現代の耕作土およびその床土である。

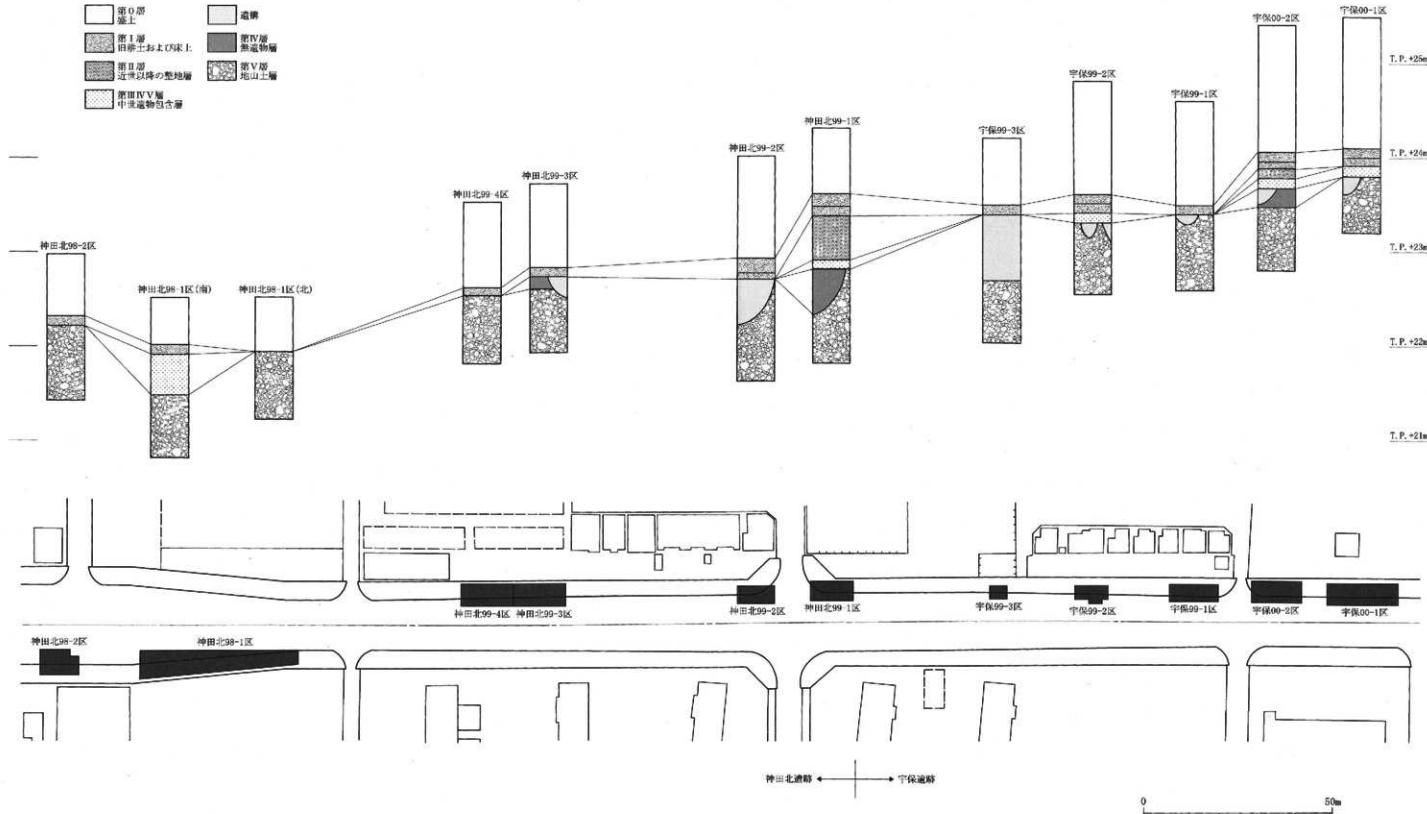
第II層 近世以降の整地層 上質は粘土～シルトを主体としており、ほぼ水平堆積を示すが、粘土採掘坑などカクラン坑を埋め戻した層も含む。古代から近現代にいたるさまざまな遺物を含む。

第III層 中世に形成された遺物包含層である。土質は褐灰色シルトを主体とし、古代から中世に至るさまざまな遺物を含む。本来は調査地一帯に存在していたと思われるが、削平され層厚さ約10cmで部分的に残存する。

第IV層 古代以前に形成された無遺物層である。上質は黒褐色～灰褐色粘土層を主体としている。地山上層である黄色粘土層上部に落ち込み、あるいは溝状に堆積している。層厚さは部分的に50cm前後の深さに達するところもある。周辺地域ではこの黒褐色粘土層に相



第2図 桑城寺遺跡 トレンチ配置図・土層断面柱状模式図



第3図 宇保遺跡、神田北遺跡 トレンチ配置図・土層断面柱状模式図

当すると思われる層から弥生時代の遺物が出土しているが、今回の調査範囲では遺物は出土しなかった。

調査時は第Ⅳ層上面を遺構面として精査した。

第V層 調査地の地山上層である。褐灰色の砂礫層の上部に黄褐色～黄色粘土が堆積している。黄色粘土の堆積が見られない箇所もある。

調査時は第V層上面を遺構面として精査した。

## 2. 調査の概観

前節で述べたように調査範囲の基本層序は5層であり、第Ⅳ層上面とV層上面に調査対象遺構面が存在する。各トレンチの基本層序を柱状図にし、トレンチ位置図と共に配置したのが第2、3図である。この図をみると遺物包含層が削平されていたり、遺構面や無遺物層が存在しないトレンチも多い。各トレンチの層序の特徴は、調査範囲の中でいくつかのまとまりとして把握できる。このまとまりごとに、北の禪城寺遺跡から順に調査を概観してみたい。

道路西側拡幅部分にあたる禪城寺97-1、2、3区はいずれも第I層旧耕土、床土を除去すると、直下のⅣ層の無遺物層上面で遺構面を検出した。3区とも頗るな遺構は検出されなかったが、97-3区ではこの遺構面から7世紀前半の上器を含む落ち込みを検出している。

反対に東側拡幅部分にあたる禪城寺98-2、3、4区では第I層旧耕土、床土を除去すると粘土探掘坑などのカクラン坑を埋め戻したⅡ層が存在する。Ⅱ層を除去すると地山上層に到達するところがほとんどで、わずかに98-3区の南半部のみⅣ層が存在し、この上面で遺構を検出した。検出した遺構からは弥生式土器が出土している。

西側拡幅部分にあたる禪城寺00-1、2、99-1区ではいずれも第I層、旧耕土を除去すると、Ⅲ層中世遺物包含層が残存する。99-1区、00-1区ではⅢ層を除去し、Ⅳ層上面で13世紀中葉の遺物を含む遺構を検出した。とくに00-1区では建物の柱穴を検出している。

東側拡幅部分にあたる禪城寺98-5、6、7区では、いずれもI、II、III層が堆積しており、98-5、6区ではIII層を除去するとV層の地山上層の上面で7世紀前半～8世紀の遺構を検出した。とくに98-6区では7世紀前半の建物柱穴を多数検出している。

宇保遺跡00-1、2区はともに盛土直下からのカクラン坑により広範囲が削平されていたが、わずかにⅢ層中世遺物包含層が残存する。00-2区はⅢ層を除去し、Ⅳ層上面で7世紀前半の土坑を検出した。

宇保99-1、2、3区は調査範囲の中で、最も遺構が集中して検出された箇所である。とくに99-1区はI層の旧耕土を除去すると直下のV層地山上層上面で7世紀前半の上器を含む土坑を数基検出した。99-2区はⅢ層の中世遺物包含層を除去すると99-1区同様V層上面で7世紀前半の土器を多数含む井戸を検出した。99-2区では、7世紀前半の遺構の他にトレンチ東側を縦断する13世紀代の大溝を検出している。99-3区でもトレンチを縦断するかたち

でこの大溝の延長が検出されている。

神田北99-1区はⅠ、Ⅱ、Ⅲ層を除去するとV層上面で大溝を検出した。大溝から土器は出土していないが、最底部から旧石器のナイフ型石器が出土した。神田北99-2、3、4区はⅠ層を除去するとV層上面で溝、落ち込み等を検出しているが、いずれも土器の出土はわずかである。調査範囲南端に至ると顯著な遺構は認められなくなる。

## 第2節 調査成果

トレンチごとの調査結果を記述する。

禅城寺遺跡範囲内では14箇所のトレンチを調査した。今回の発掘調査範囲は禅城寺遺跡全体の東端部に該当する。それぞれのトレンチの調査結果を、道路西側拡幅部分のトレンチを北から南の順に説明し、次に東側拡幅部分のトレンチを北から順に説明する。

### 禅城寺97-1区（図版1-1）

調査地内で最も北側に位置する東西8m、南北約20mのトレンチである。盛土、旧耕土、床土を除去すると暗灰黄色粘質土上面で落ち込み等を検出した。遺構面のベース土となっている暗灰黄色粘質土はトレンチ全体に層厚さ約20cmで堆積しているが、遺物は含んでおらず無遺物層である。さらに下層に黒褐色粘質土を主体とする無遺物層が約20cmの層厚さで堆積しており、この2層を除去すると調査地域の地山土層となる明黄褐色粘質土にいたる。

97-1区の出土遺物は、土師器、瓦器等の小片のみで、第5図1は唯一図化できた土師器小皿である。

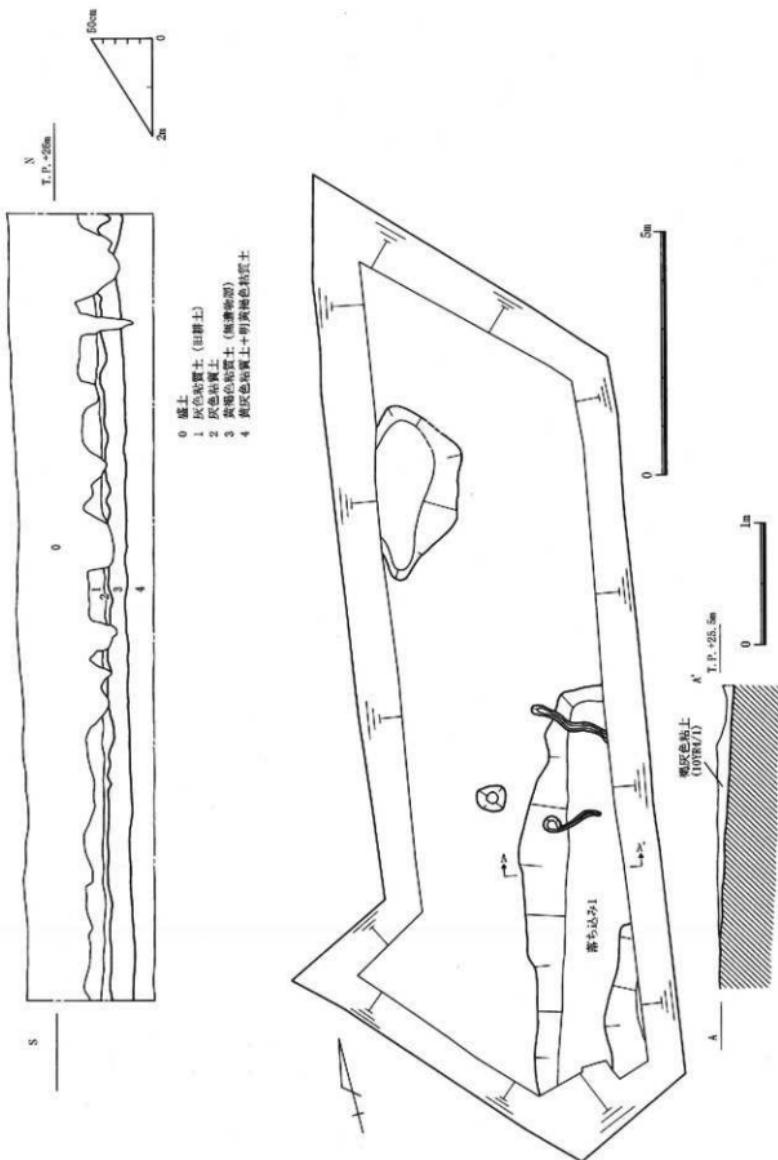
### 禅城寺97-2区（図版1-2）

禅城寺遺跡内北部に位置する東西7m、南北約32mのトレンチである。盛土、旧耕土、床土を除去した段階で落ち込み等を検出した。遺構面のベース土は南半部は黄褐色粘質土、北半部は暗灰黄色粘質土となっておりいずれも層厚さ約20cmの無遺物層である。北半部は暗灰黄色粘質土の下層に黒褐色粘質土が落ち込み状に堆積しており、層厚さは北端部で約40cmを測る。この2層を除去すると調査地域の地山土となる明黄褐色粘質土にいたる。

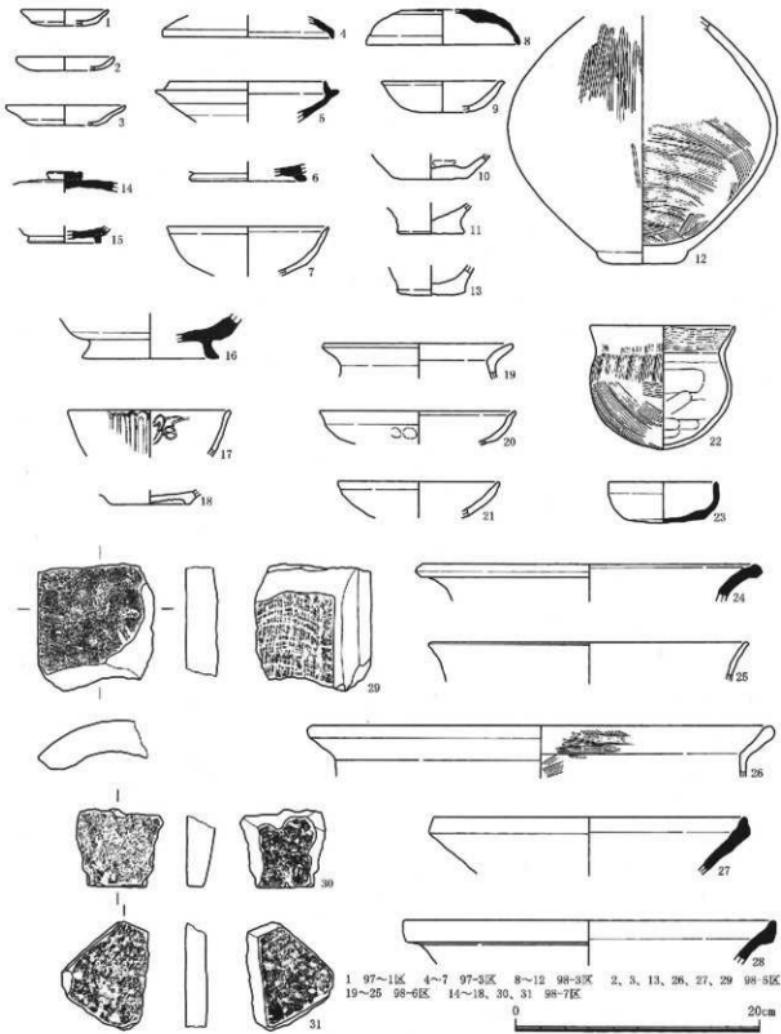
97-2区の出土遺物は瓦器、土師器の細片のみで図化したものはなかった。

### 禅城寺98-1区

禅城寺遺跡中央部に位置する東西約6m、南北約7mのひし形のトレンチである。盛土、旧耕土、近世以降の整地層を除去すると灰色粘土上面にいたる。灰色粘土層は厚さ約20cmでトレンチ全体に水平に堆積しているが遺物を含んでおらず無遺物層である。この層を除去するとレキ層の地山土層となる。遺構は検出されなかった。



第4図 禅城寺97-3区全体平面図・断面図、落ち込み1断面図



第5図 禅城寺97-1、3区 98-3、5、6、7区出土遺物実測図

禅城寺97-3区（図版1-3、第4図）

禅城寺遺跡内中央部に位置する東西約6m、南北約18mのトレンチである。盛土、旧耕土、床土を除去すると黄褐色粘質土上面で落ち込み等を検出した。遺構面のベースとなっている黄褐色粘質土はトレンチ全体に層厚さ約20cmで堆積しているが、遺物は含んでおらず無遺物層で

ある。この無遺物層を除去すると調査地域の地山土となる明黄褐色粘質土にいたる。

9 7 3 区からは瓦器、土師器、須恵器等の小片が出土した。第5図4~7はその一部である。落ち込み1からは須恵器、土師器小片が出土した。4~6は落ち込み1から出土した須恵器である。4は蓋杯、5は杯身、6は杯Bの高台部である。7は土師器杯身である。わずかな出土遺物からの推定であるが、遺構面の時代は7世紀前半としておきたい。

#### 禪城寺00-1区(図版6-1~3、第6図)

禪城寺遺跡内中央部に位置する東西約5m、南北14mのトレンチである。盛土、旧耕土、中世遺物包含層に相当する淡灰茶色粘質土を除去すると、淡黄茶色粘土上面で土坑8基、溝1条の遺構を検出した。遺構面のベースとなっている淡黄茶色粘土はトレンチ全体に層厚さ約50cmで堆積しているが、遺物は含んでおらず無遺物層である。この無遺物層を除去すると調査地域の地山土となる黄色粘土にいたる。

上坑はいずれも平面形が円形か楕円形、検出深さは10cm程度で、トレンチ南西部に集中して検出した(第2表)。これらの土坑のうち、土坑4、5、7は土坑7を中心にして直角に位置しており、建物の柱穴の可能性も考えられる。土坑からは土師器、瓦器片などが出土した。

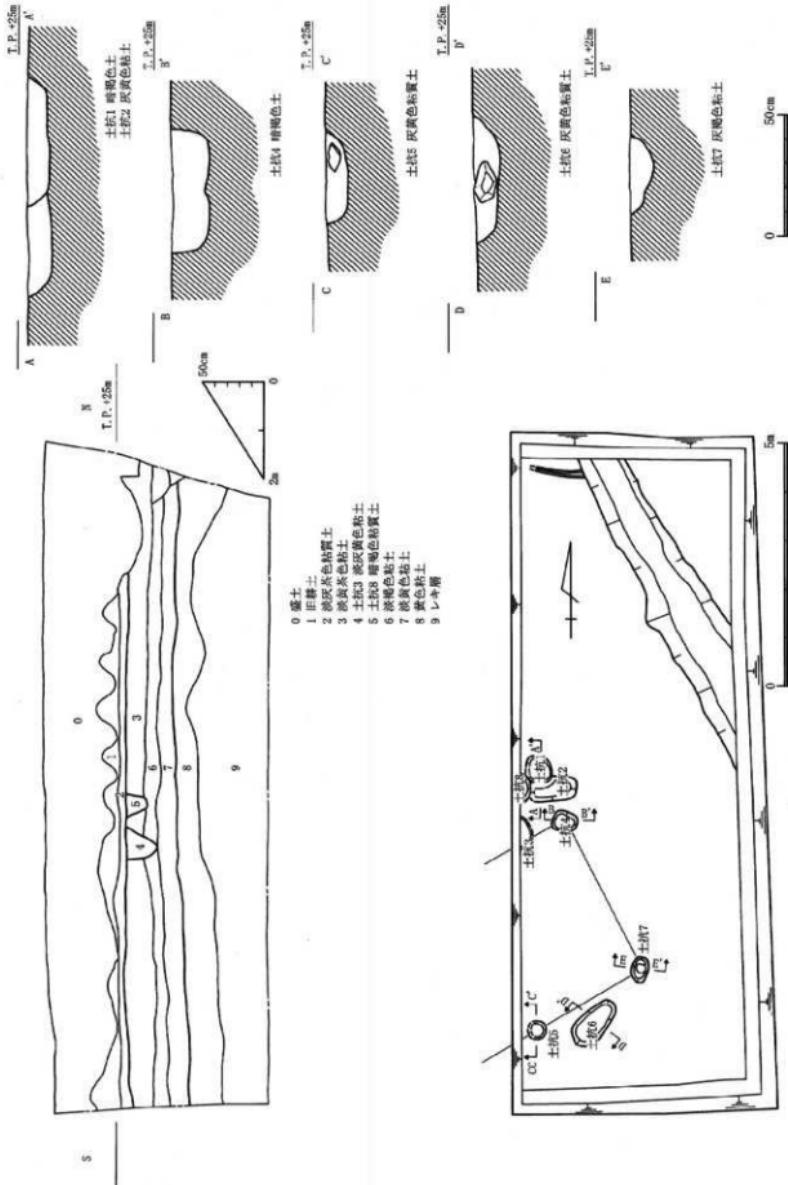
00-1区からは瓦器、土師器等が出土した。第7図1~3はその一部である。1、2、8は土坑1、6、9、26は上坑2からの出土である。

1~6は土師器皿である。口縁部が内湾しつつ上方にのびるタイプのもので、口径がそれぞれ平均7.3cm、9.7cm、13.5cmの3グループに分かれ。7~16は瓦器碗である。いずれも器壁の摩滅が激しく調整ははっきりしないが、外面指オサエ、内面粗いヘラ磨きが残る。図化したものの口径の平均は14cm前後になる。瓦器碗編年ではⅢ-3期前後、13世紀中頃に比定できる一群と思われる。

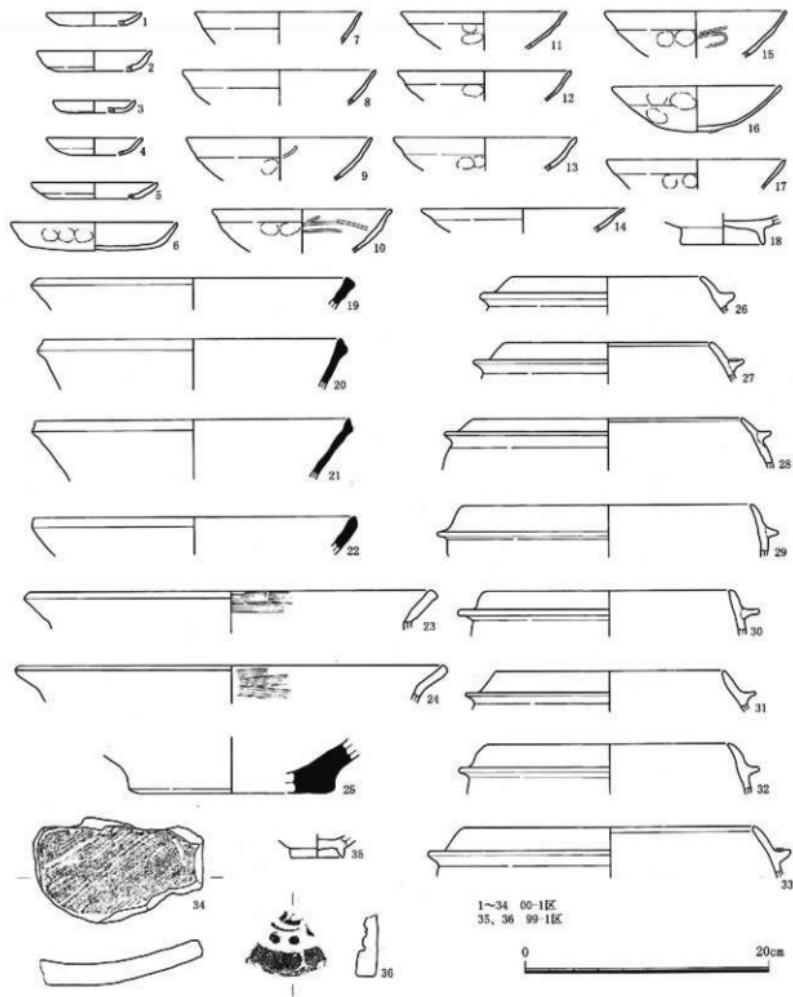
19~22は東播系須恵器の片口鉢である。いずれも口径が推定27cm前後で、口縁端部が外傾する面をもつものと、この端面が上方に拡張しているものの二種類が見られる。東播系中世須恵器の編年では第Ⅱ期第2段階にいたる上器を含んでいると思われる。25は須恵器平底の底

土坑No.	長径(cm)	短径(cm)	検出深さ(cm)	出土遺物	備考
1	56	54	9	瓦器碗、土師器皿、瓦質羽筒	
2	100	50	10	瓦器、土師器	
3	70		20		
4	50	40	15	瓦器、土師器	2個のビットが切りあっている?
5	38		9		
6	110	60	11		
7	52	34	10		
8	68		18	瓦器碗、土師器	

第2表 禪城寺00-1区土坑一覧表



第6図 禅城寺00-1区全体平面図・断面図、土坑断面図

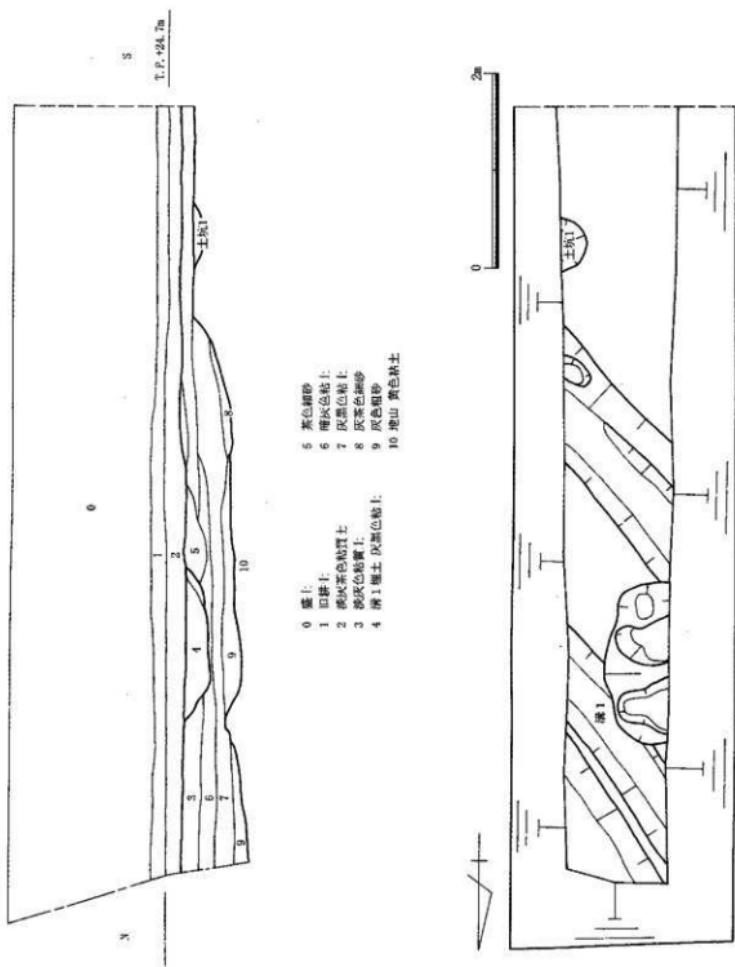


第7図 禅城寺 00-1区、99-1区出土遺物実測図

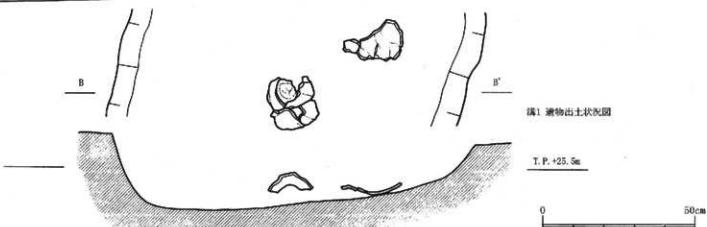
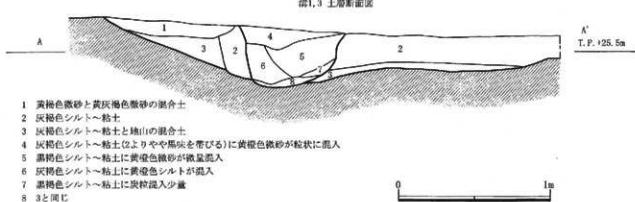
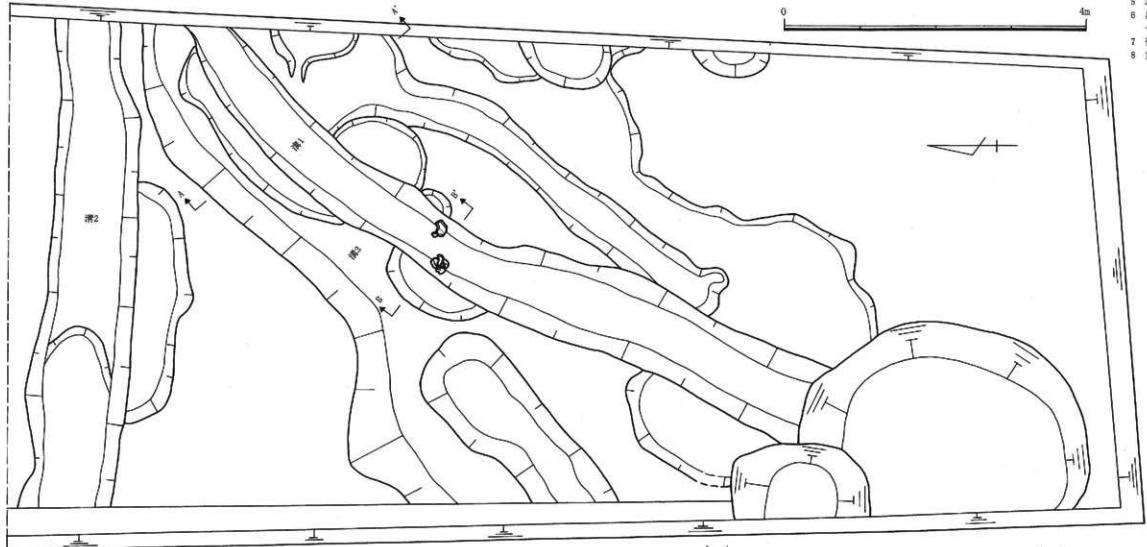
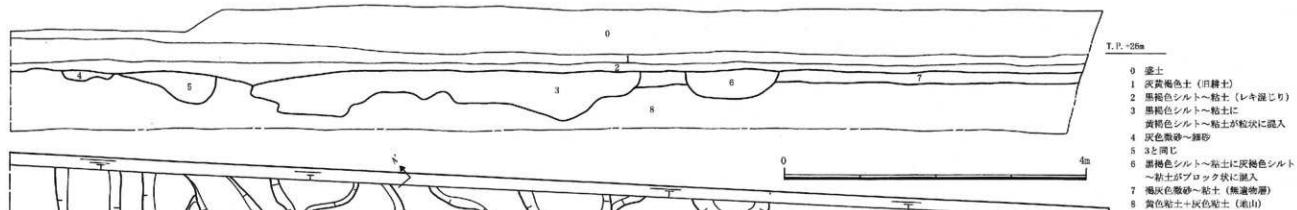
部である。18は灰釉陶器の高台部であると思われる。23、24は土師質土鍋の口縁部である。

26～33は瓦質三足釜の口縁部である。いずれも口縁部は内湾しつつ上内方にのびるが、29、30のように大きく内傾せず上方にのびるタイプもある。小片で口径は推定復元であるが、16cm、20cm、24cmの三グループに分かれる。

34は平瓦片である。両面に糸切り法による切断痕と、布目の圧痕がみられる。



第8図 銘城寺99-1区全体平面図・断面図



第9図 禅城寺98-3区 全体平面図・断面図、溝1、3土壌断面図、溝1遺物出土状況図

出土遺物から、遺構面の時期は13世紀中葉としておきたい。

#### 禅城寺9-1区(図版7-1、第8図)

禅城寺遺跡内南部に位置する東西2.3m、南北約1.4mのトレンチである。盛土、旧耕土、トレンチ全域に堆積している淡灰茶色粘質土(中世遺物包含層に相当する)を除去すると南半部は黄色粘土層上面となる。北半部は黄色粘土の上層に灰黑色粘土を主体とする層が溝状に堆積しているが遺物を含んでいない。この無遺物層上面で北東から南西方向に主軸を取る溝1を検出した。

溝1の検出最大幅は7m、検出深さは23cmである。埋土は灰黑色粘土で上師器、須恵器、瓦質土器片が出土した。溝1からの出土遺物の年代の下限は13世紀中葉に収まる。

第7図35、36は包含層の出土遺物である。35は白磁碗の高台部分である。高台径4.2cmで、ほぼ三角高台である。36は巴紋軒丸瓦の破片である。

#### 禅城寺00-2区(図版7-2)

禅城寺遺跡内南部に位置する東西2m、南北1.6mのトレンチである。盛土、旧耕土、近世以降の整地層、中世遺物包含層に相当する灰色粘土層を除去すると、トレンチ南半部では地山上である黄色粘土層の上面、北半部では暗灰黑色粘土上面にいたる。暗灰黑色粘土層はトレンチ北端で20cmの層厚さを測るが、遺物は含んでおらず無遺物層である。中央北よりではこの層上面で淡灰黑色粘土を埋土とする落ち込みを検出したが、落ち込み内から遺物は出土しなかった。

#### 禅城寺00-3区(図版7-3)

禅城寺遺跡最南部に位置する東西4.2m、南北約1.1mのトレンチである。盛土、旧耕土、床上を除去すると直下の黄色粘土層上面で直径40cm程度の円形のピットを6基検出した。いずれも遺物は含んでおらず年代等は不明である。

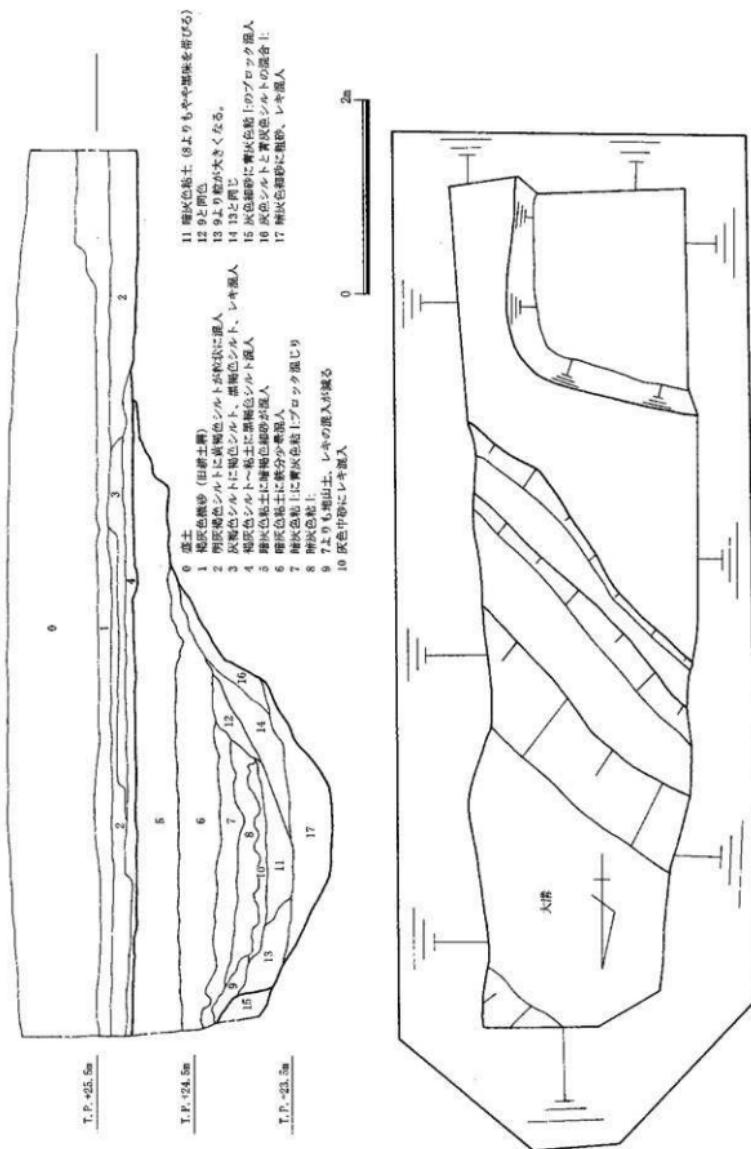
#### 禅城寺98-2区(図版2-1)

禅城寺遺跡内北部に位置する東西7m、南北20mのトレンチである。盛土、旧耕土、近世以降の整地層を除去すると黄色粘土の地山層にいたる。遺構は検出されなかった。

#### 禅城寺98-3区(図版3-1~3、第9図)

禅城寺遺跡内北部に位置する東西7m、南北30cmのトレンチである。旧耕土、トレンチ内全域に堆積している灰褐色シルト(中世遺物包含層)を除去すると、トレンチ南半部で溝等の遺構を検出した。検出面のベース土は黄色粘土を主体とする地山土層であるが南端部では黄色粘土の上部に褐灰色粘土が10cmの厚みで堆積しており、遺構はこの層の上面で検出した。

溝1は北東から南西方向に主軸を取る溝で、最大幅1m10cm、検出深さ40cmを測る。



第10図 禅城寺98-5区全体平面図・断面図

溝内から弥生式土器の底体部（第5図12）が出土した。第9図はその出土状況図である。

溝3は溝1と同様北東から南西方向に主軸を取る溝で、最大幅約5mを測る。溝1のルートに重複しており溝1がオーバーフローしたものと考えられる。溝1と同様、弥生式土器片が出土した。

溝2は東西方向に主軸を取る溝で中世の土器片が出土した。

第5図8～12は98-3区の出土遺物の一部である。8は須恵器杯蓋、9は土師器杯身、11は弥生式土器底部で3点とも包含層からの出土である。10、12は溝1内から出土した弥生式土器の壺である。12は外面縦方向のヘラ磨き、内面底部はけ調整、上部なで仕上げられている。弥生時代後期の壺と思われる。

#### 禅城寺98-4区（図版2-2、3）

禅城寺遺跡内中央部に位置する東西4m、南北3.2mのトレンチである。盛土、旧耕土、近世以降の整地層を除去すると黄色粘土の地山層にいたる。遺構は検出されなかった。

#### 禅城寺98-5区（図版4-1、3、第10図）

禅城寺遺跡の東端部に位置する東西3.6m、南北約1.0.5mのトレンチで、北側に阪急宝塚線が通る。盛土、旧耕土、近世以降の整地層を除去すると、トレンチのほぼ2/3に褐色シルトの中世遺物包含層が層厚さ約1.0cmで堆積する。この遺物包含層を除去した段階で、北西から南東方向にのびる大溝を検出した。大溝検出面のベース上は黄色粘土の地山層である。

大溝の北東部肩はトレンチ範囲外であるが、土層断面を観察すると検出面から4.0cmほど掘り下げた段階で中央部のみをさらに深く掘り下げる二段掘りであることが判明した。二段目掘り下げの検出面で推定溝幅は3.5m、検出深さは1.6mである。溝内上層、および中層の暗灰色粘土から須恵器、土師器片が出土したが、図化可能なものはなかった。大溝の年代は、はっきり時代を確定できるような遺物は出土しなかったが、おおむね8世紀代、7世紀にさかのぼる可能性があるとしておきたい。

第5図2、3、13、26、27、29は98-5区の包含層からの出土遺物の一部である。2、3は土師器小皿、13は弥生式土器の底部、26は土師質土鍋、27は中世須恵器の片口鉢、29は丸瓦片である。

#### 禅城寺98-6区（図版5-1～6、第11図）

禅城寺遺跡内中央部に位置する東西3.4m、南北約2.7mのトレンチである。盛土、旧耕土、近世以降の整地層、中世遺物包含層である褐色シルトを除去した段階で、溝、ピット、落ち込みなどを検出した。検出面のベース土は黄色粘土の地山層である。中世遺物包含層である褐色シルトはトレンチ内に部分的にうすく堆積しているに過ぎない。したがってこの層上面から掘り下げ

られている遺構である溝も、結果として黄色粘土上面でとらえることとなった。

主な遺構について説明する。トレント北端と南端の二ヶ所で一辺0.5~1.0mの比較的大きな柱穴群を検出した（第3表）。調査区が狭小なため明確に建物に復元できるものはなかったが、隣接した位置で2~3個の柱穴が切りあって検出されており、建物の建替えが何回かあったと思われる。埋土はいずれも黒褐色シルトに地山土層の黄色粘土がブロック状に混ざったものであり、一気に埋め戻された状況を呈している。

第11-4図はピット11の遺物出土状況図である。ピット底部から須恵器體部片がまとまって出土した。

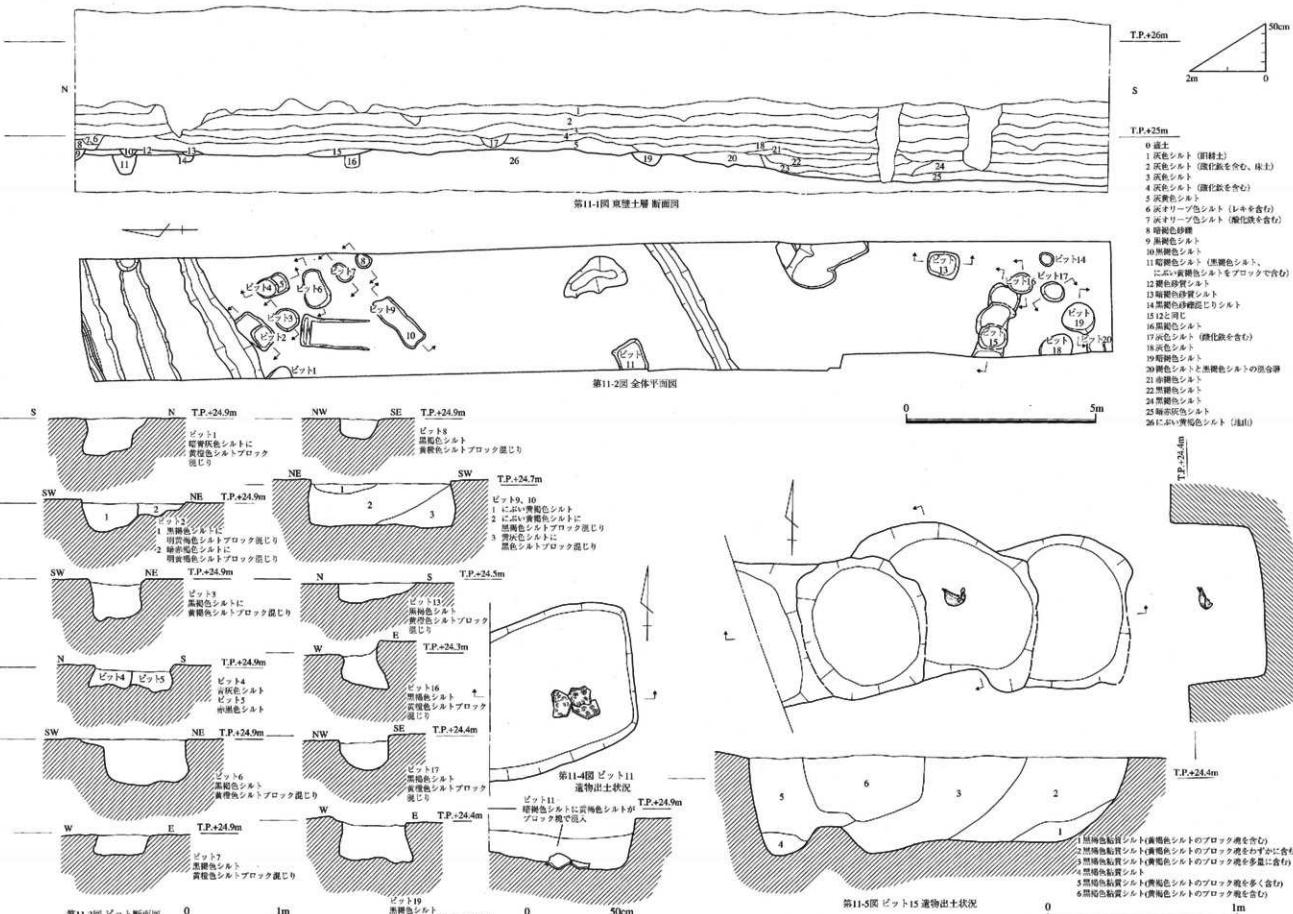
第11-5図はピット15の遺物出土状況図である。ピット15は少なくとも3個以上のピットがきりあつた状態で検出された。埋土上層から小型の土師器の壺ほぼ一個体が出土した。第5図22はピット15出土遺物実測図である。口径約12cm、高さ10.5cm、口縁部は上外方にまっすぐ伸び、端部は丸い。口縁部と体部の境ははっきりせず、体部の肩はなだらかに下がる。外面ハケ調整、内面口縁部は横ハケ調整、体部はナデ調整で仕上げられている。ピットが埋め戻されるときに投棄されたものと思われる。

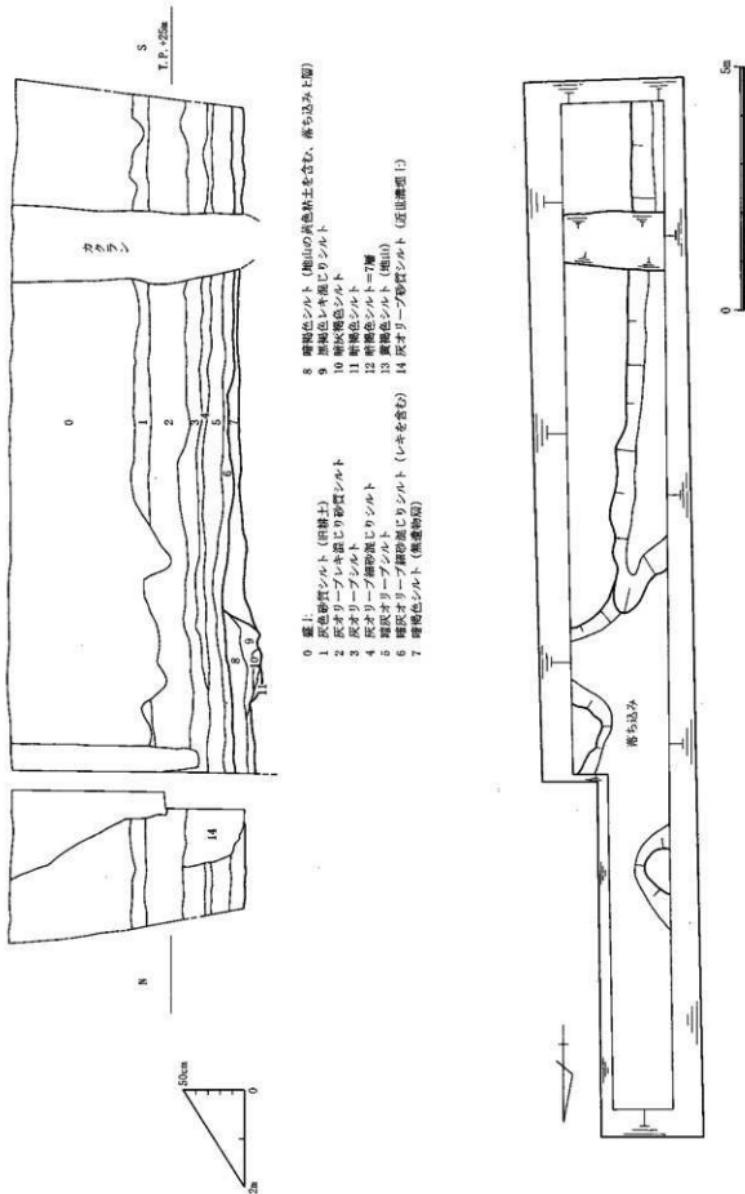
第5図19~21、23~25は98-6区の包含層からの出土遺物の一部である。19は土師器壺口縁部、20、21は土師器杯身、23は須恵器杯身である。24は須恵器の、25は土師器のそれぞれ壺の口縁部である。

遺構からの出土遺物は非常に少なく、土器編年の基準になる杯はほとんど出土しなかったが、直上の包含層の出土遺物なども参照して、遺構面の時期はおおむね7世紀前半としておきたい。

ピットNo.	長径(cm)	短径(cm)	検出深さ(cm)	出土遺物	備考
1	75		40	土師器	
2	108	55	30	土師器	2個のピットが切りあっている？
3	64	60	35	須恵器、土師器	
4	56	50	20		
5	52		23	須恵器體部片他、土師器	
6	105	70	50	須恵器、土師器	2個のピットが切りあっている？
7	58	38	42		
8	46	38	20		
9	90	58	47	土師器	
10	58		45	須恵器、土師器體部片	ピット9と切りあっている。
11	75		27	須恵器體部片、土師器體部片	
13	85	70	20		
14	40	34	20		
15	170	74	50	土師器小型壺ほぼ一個体分	3個のピットが切りあっている？
16	68	55	40		
17	64	50	30		
18	90		28		
19	88	88	40		
20	50		36		

第3表 樽城寺98-6区ピット一覧表





第12図 親城寺 98-7 区全体平面図・断面図

### 禅城寺98-7区(図版4-2、第12図)

禅城寺遺跡の東南部に位置する東西約3m、南北21mのトレンチである。盛土、旧耕土、近世以降の整地層を除去すると、トレンチのほぼ全域に灰色シルトを主体とする中世遺物包含層が層厚さ約20cmで堆積している。この包含層を除去し、下層の暗褐色シルト上面でトレンチの西側に落ち込みを検出した。ベース土となっている暗褐色シルトはトレンチ全域に層厚さ約10cmで堆積しているが、遺物は含んでいない無遺物層である。

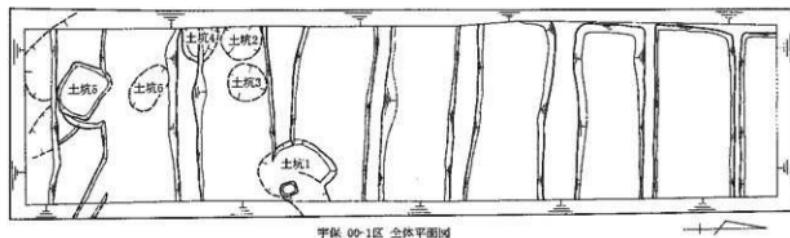
落ち込みからは土師器、須恵器片が出土した。

第5図14~18、30、31は98-7区の出土遺物の一部である。14~16は落ち込みからの出土、その他は包含層からの出土遺物である。

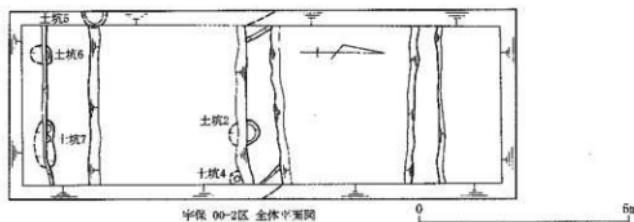
宇保遺跡範囲内では5箇所のトレンチを調査した。今回の調査範囲は宇保遺跡全体の東端部に該当する。それぞれのトレンチの調査結果は西側道路拡幅部分のトレンチを北から南の順に説明する。

### 宇保00-1区(図版7-4、第13図)

宇保遺跡範囲内北部に位置する東西5m、南北18.5mのトレンチである。盛土、旧耕土、床土を除去すると地山土層の黄色粘土に達するカクラン坑が東西方向の溝状に数列検出された。中世遺物包含層はこのカクラン溝の肩部が畦状に残存している部分にわずかに認められるにすぎない。この遺物包含層を除去すると黄色粘土層上面で一辺が90cm~1.5m程度の土坑群を



宇保00-1区 全体平面図



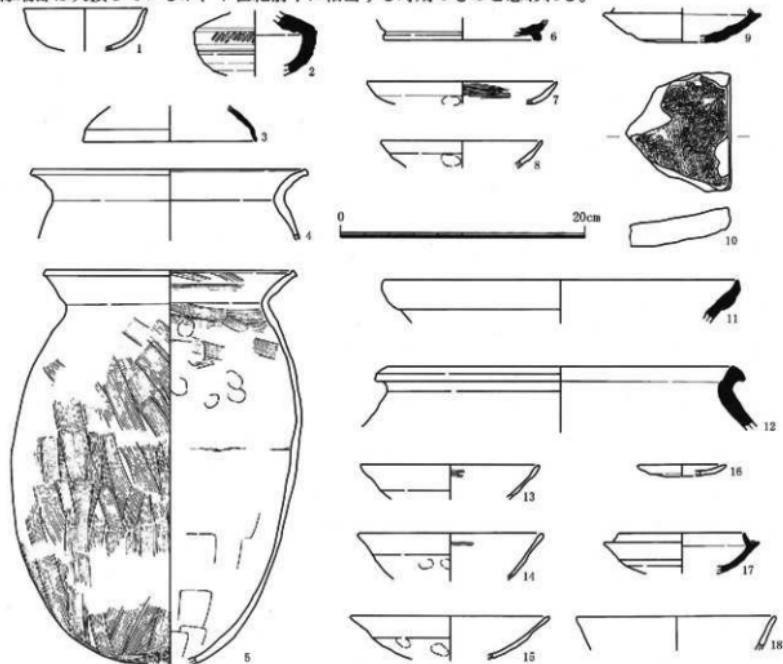
第13図 宇保00-1、2区全体平面図

検出した。カクラン坑が地山層まで達しているのでほとんどの土坑が痕跡のみである。土坑1から須恵器、土師器の小片、土坑5から須恵器、瓦質土器の小片が出土したが、図化できるものはなかった。

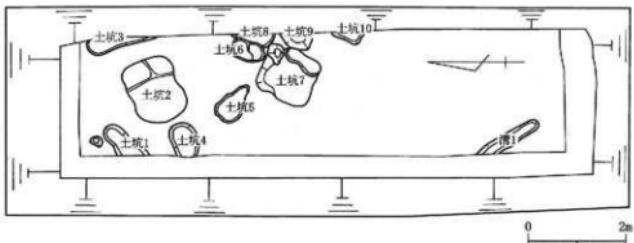
第14図6～8は00-1区の出土遺物の一部である。6は須恵器高台部、7は瓦器皿、8は瓦器梶いずれも包含層からの出土である。

#### 宇保00-2区（図版7-5、第13図）

宇保遺跡範囲北部に位置する東西5m、南北1.2mのトレンチである。旧耕土、床土を除去すると、宇保00-1区と同様地山土層の黄色粘土に達するカクラン坑が東西方向の溝状に数列検出された。中世遺物包含層に相当する淡灰色土層はカクラン溝の肩部が壁状に残存している部分にわずかに認められるに過ぎない。この包含層を除去した段階で一辺70～50cm程度の土坑群を検出した。宇00-1区と異なり遺構検出面のベース土は黒褐色粘土層である。黒褐色粘土層は遺物を含んでいない無遺物層であり、この層を除去すると黄色粘土の地山層にいたる。土坑4からは須恵器甕部片、杯身片が出土した。第14図9は土坑4出土の須恵器杯身である。口縁端部は欠損しているが、7世紀前半に相当する時期のものと思われる。



第14図 宇保00-1、2区、99-1、3区出土遺物実測図



第15図 宇保99-1区全体平面図

第14図10、11は00-2区包含層からの出土遺物である。10は平瓦片、凸面は離れ砂が残り、凹面粗いナデと思われる。11は須器壺口縁部である。

#### 宇保99-1区（図版8、9、第15図）

宇保遺跡範囲内中央に位置する東西4.3m、南北12.8mのトレンチである。盛土、旧耕土を除去し、直下の黄色粘土層上面で密集する土坑、溝などを検出した。

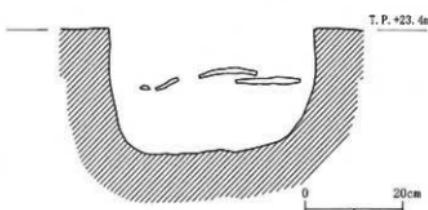
主な遺構とその出土遺物について説明する。

**土坑2** 平面形は長辺が1.3m、短辺が1mの隅丸長方形で、検出深さは約50cm、掘削断面はフラスコ状である。少量の土師器片が出土した。第14図4は土坑2出土の土師器壺口縁部

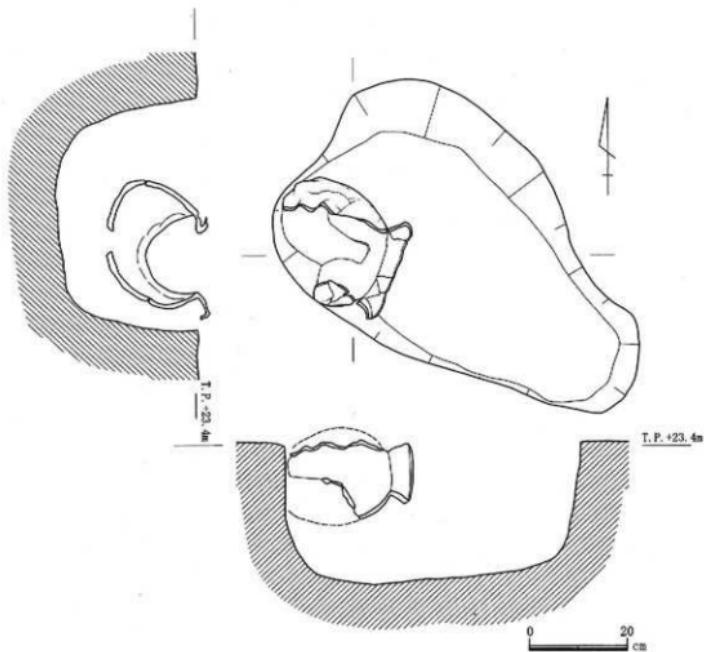
である。口縁部は外反しつつ上方にのびる。口縁端部は面を持ち上部にわずかに肥厚する。やや摩滅しているが、内外面ともナデ調整で仕上げられている。

**土坑5（第17図）** 平面形は、最大長約8.0cmの不整形なばち形で、ほぼ垂直に掘り下げられており検出深さ2.8cmである。土師器長胴壺の口縁部から体部上半が出土している。

**土坑6（第16図）** 平面形は、最大長約7.0cmの不整形な隅丸長方形で、ほぼ垂直に掘り下げられており検出深さ2.5cmである。土坑5から出土した土師器長胴壺の底体部が出土した。第14図5は土坑5、6から出土した土師器長胴壺を接合して実測したものである。口縁部はやや外反しつつ上方にのびる。口縁端部は面を持ち上部



第16図 宇保99-1区土坑6遺物出土状況平面図・断面図

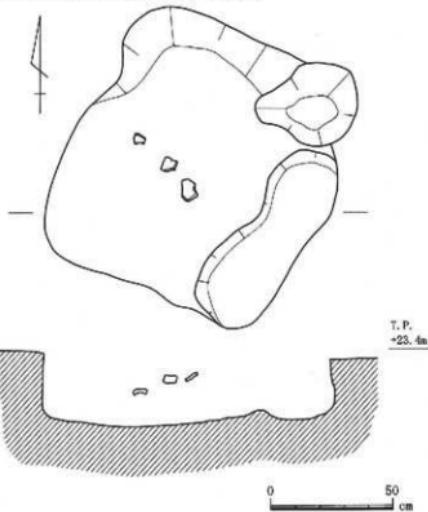


第17図 宇保99-1区土坑5遺物出土状況平面図・断面図

にわずかに肥厚する。体部外面、口頸部内面はハケ調整、体部内面はヘラ削りの跡が残る。

土坑7（第18図） 平面形は一辺約1m10cmの隅丸方形で、ほぼ垂直に掘り下げられており検出深さ約25cmである。土師器、須恵器が出土した。第14図1～3は土坑7からの出土遺物である。1は土師器杯である。内面は摩滅しているが、残存している外面はナデ調整で仕上げられている。

2は穿孔部分は残存していないが、須恵器ハゾウである。3は

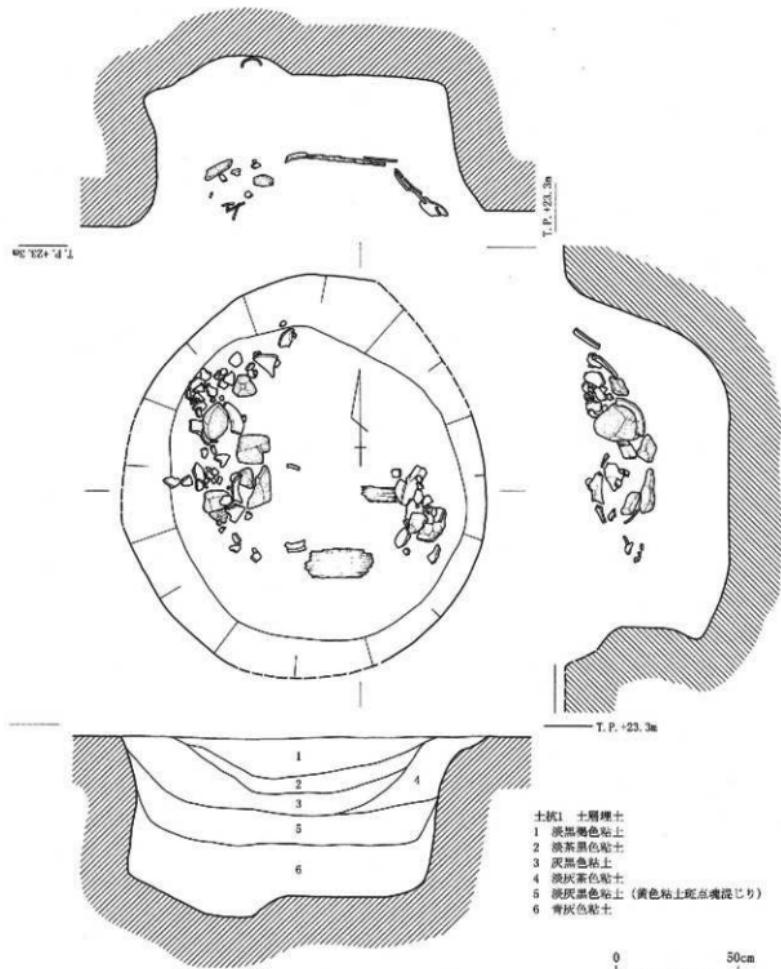


第18図 宇保99-1区土坑7遺物出土状況平面図・断面図

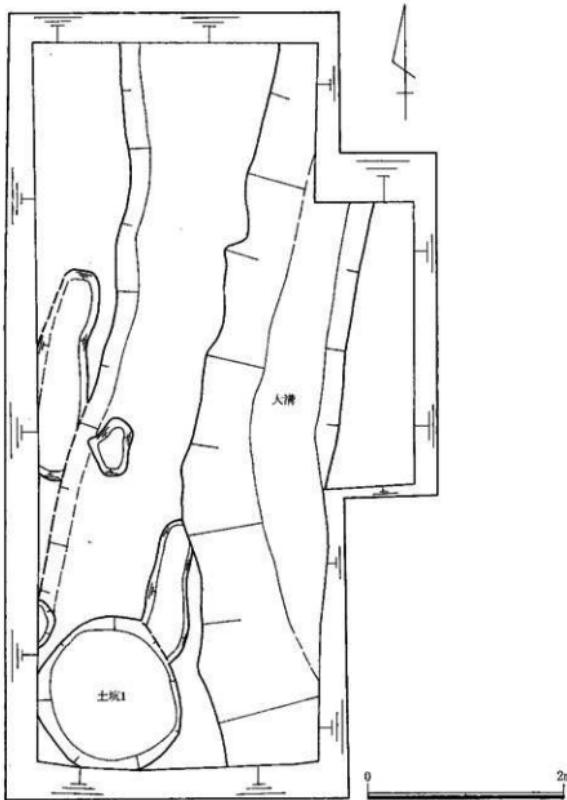
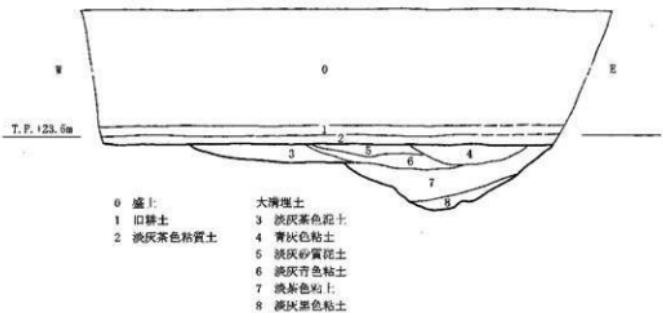
須恵器杯蓋である。器壁は薄く残存部分は回転ナデ調整で仕上げられている。

検出した土坑群は、平面形が不整形なものが多く密集している。遺構の検出状況から、周辺の遺跡でも検出されている土坑墓群の可能性があげられる。わずかな出土遺物からの推察であるが、遺構面の時期は7世紀前半と思われる。

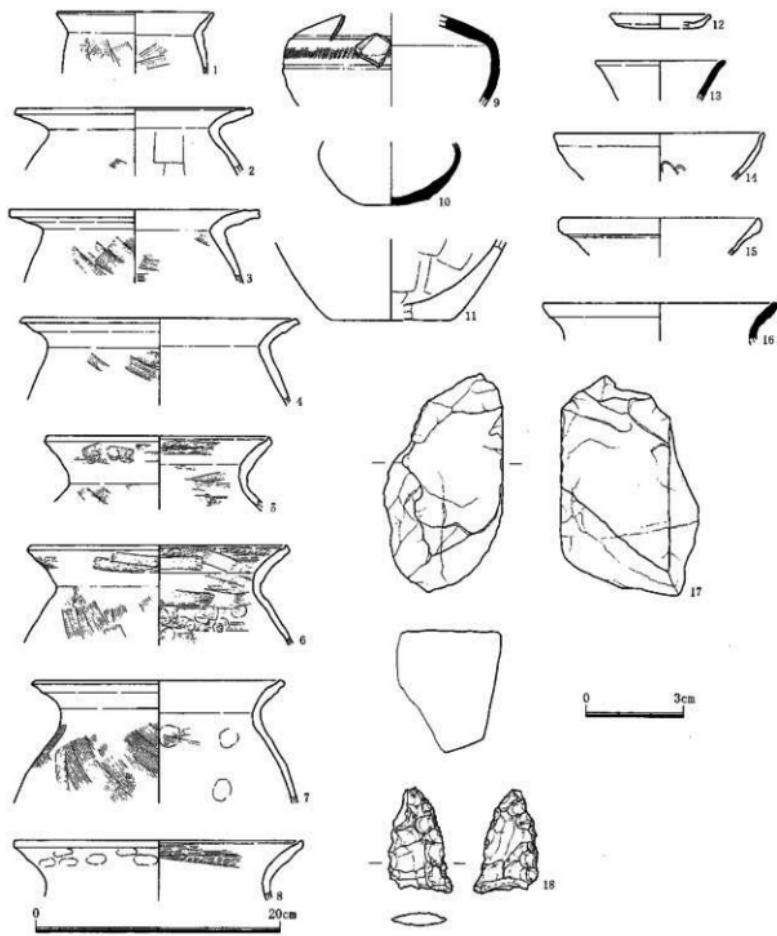
宇保99-2区（図版10-1、2、第20図）



第19図 宇保99-2区土坑1遺物出土状況平面図・断面図、土層断面図



第20図 宇保99-2区全体平面図・断面図



第21図 宇保99-2区出土遺物実測図

宇保遺跡内南部に位置する東西3.5m、南北8mのトレンチである。盛土、旧耕土、中世遺物包含層に相当する淡灰茶色粘質土を除去した段階でトレンチ西半部に南北方向に主軸を取る大溝、南東隅に土坑1を検出した。遺構検出面のベース土は黄色粘土の地山土層である。

当初設定したトレンチでは大溝の西側肩部のみ検出した。そのため底部と東側肩部を確認するため一部分トレンチを拡張した。大溝は二段掘りに掘削されており、一段目掘り下げる検出面で推定幅2.2m、検出深さは60cmである。埋土は約3層に分かれるが、いずれの層からも土師器、須恵器、瓦器片などが出土した。土器以外の遺物では、鉄製品、鉢津、溝底部から馬齒が

出土している。

第21図12～18は大溝からの出土遺物の一部である。12は土師器小皿、13、16は須恵器、14は瓦器椀、15は白磁碗、17は石製品で砥石、18は石鎌である。出土遺物の年代の下限は13世紀中葉に比定できる。

土坑1は平面形が径1.5×1.7mのだ円形で、検出深さが75cmである。ほぼ垂直に掘り下げられており、素掘りの井戸であったと思われる。第19図は遺物の出土状況図および土壙断面図である。埋土は大きく二層に分かれ、おもに上層から比較的多量の土師器、須恵器、その他炭化材などが出土した。

第21図1～11は土坑1からの出土遺物の一部である。1～8は土師器甕口縁部である。1は小型の甕で口径が推定12.8cm、口縁部は上外方にまっすぐ伸び、端部は丸く終わる。

2～4の土師器甕は口縁部の屈曲が「く」の字型で口縁端部に面をもつ。いずれも外面はハケ調整で仕上げられている。5～8の土師器甕は口縁部の屈曲がながらかで体部の肩が張らないものである。口縁部は外湾しつつ上外方にのび端部は面を持つ。5、6、8は端部が上方にやや肥厚する。

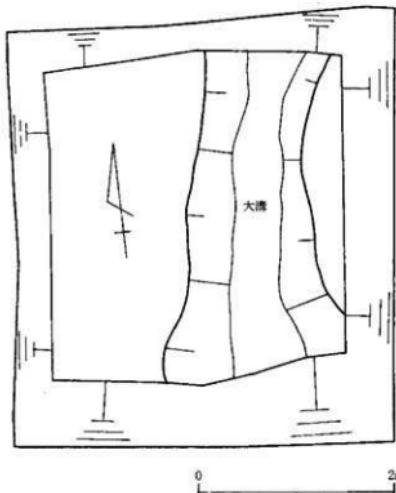
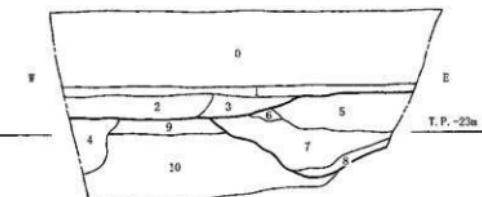
9は須恵器壺の体部、10は須恵器ハソウが短頸壺の底体部である。10は土坑1の最底部から出土した唯一の土器である。11は弥生式土器の底部である。

出土遺物から土坑1の年代は7世紀前半と思われる。

宇保99-3区（図版10-3、第22図）

宇保遺跡内で最南部に位置する東西4m、南北4.5mのトレンチである。盛土、旧耕土を除去した段階でトレンチ西半部に南北方向に主軸を取る大溝を検出し

0 盛土	4 茶灰色砂	8 暗灰色粘土
1 旧耕土	5 細砂層	9 暗褐色粘土（地山）
2 淡灰色砂様巣巣粘土	6 淡灰色粘土	10 底褐色粘土
3 淡灰茶色粘土	7 淡灰茶色粘土	



第22図 宇保99-3区全体平面図・断面図

た。大溝検出面のベース土は黄色粘土の地山土層である。検出最大幅1.8m、検出深さ80cmを測り、埋土上層は細砂層、瓦器、土師器片、青磁片が出土した。下層は淡灰茶色粘土で、瓦器、土師器片が出土した。溝の主軸の方向、埋土や出土遺物からみて宇保99-2区で検出した大溝につながるものと思われる。

第14図12～18は大溝からの出土遺物の一部である。12、15、16、18は上層から、13、14、17は下層からの出土である。12は中世須恵器縁の口縁部、13～15は瓦器縁、16は土師器小皿、17は須恵器杯身、18は青磁碗である。

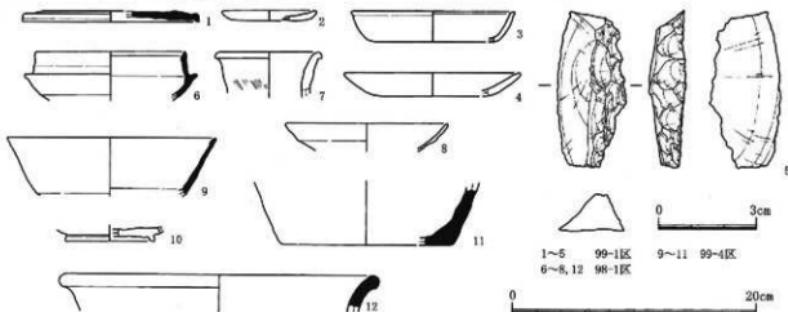
大溝出土遺物年代の下限は瓦器縁編年でⅢ-3期前後に比定できると思われ、大溝は13世紀中頃、溝として機能していたと思われる。

神田北遺跡範囲内では6箇所のトレンチを調査した。今回の調査範囲は神田北遺跡全体の東端部に該当する。それぞれのトレンチの調査結果は、道路西側拡幅部分のトレンチを北から南の順に説明する。

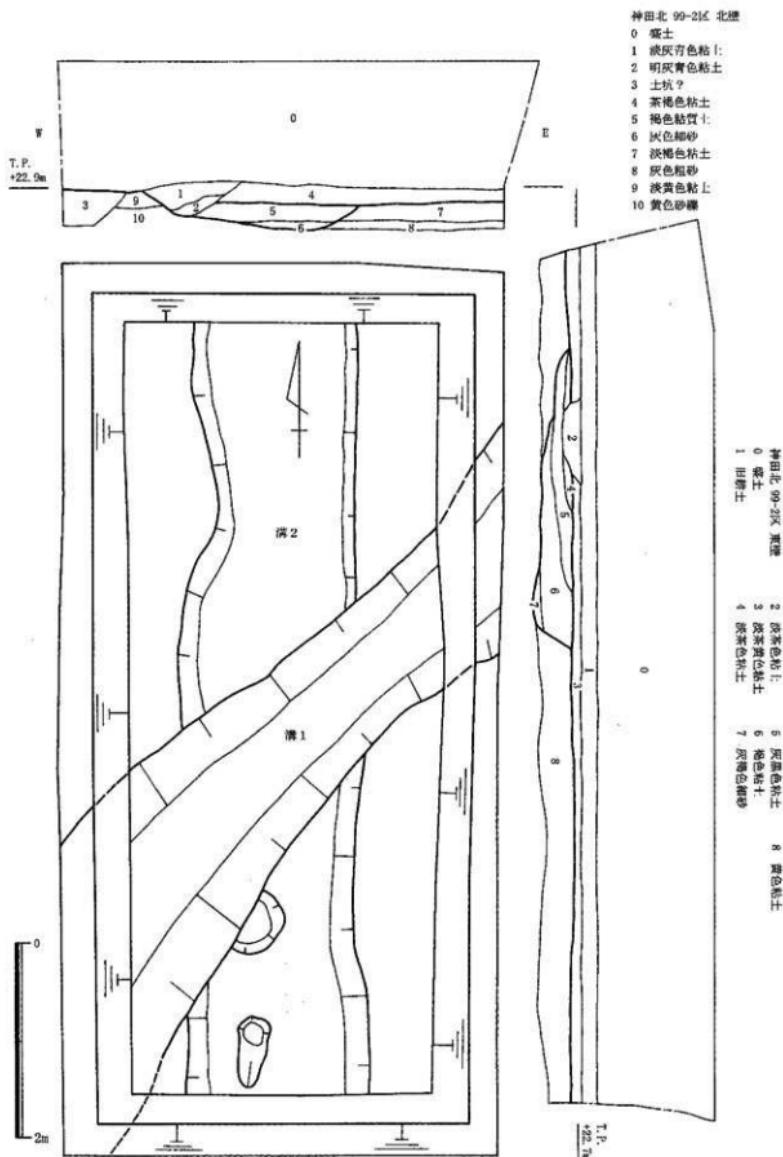
#### 神田北99-1区（図版11-1）

神田北遺跡内で最北部に位置する東西約3m、南北10mのトレンチである。盛土、旧耕土、床土、近世以降の整地層を除去するとトレンチ全域に中世遺物包含層に相当する茶褐色粘土が層厚さ約10cmで堆積している。この層を除去すると北東から南西方向に主軸を取る大溝を検出した。検出面のベース土は黄色粘土の地山層である。大溝の検出幅は3m、検出深さ30cmで埋土は淡茶褐色粘土を主体とし、土器は出土しなかったが溝最底部に堆積する細砂層から国府型ナイフ型石器が1点出土した（第23図5）。

第23図1～4は99-1区包含層からの出土遺物の一部である。1は須恵器杯蓋、2は土師器小皿、3、4は土師器杯である。



第23図 神田北99-1、4区、98-1区出土遺物実測図



第24図 神田北 99-2区全体平面図・断面図

### 神田北99-2区（図版11-2、第24図）

神田北遺跡内で北部に位置する東西4.5m、南北9.1mのトレンチである。盛土、旧耕土を除去し黄色粘土上面で溝を2条検出した。溝1はトレンチ北東から南西に主軸を取ると推定され検出最大幅1.8m、検出深さ35cmである。埋土は淡茶色粘土～褐色粘土で土師器片が出土した。

溝2は南北方向に主軸を取り、トレンチほぼ中央で上層から掘り下げられている溝1と斜交している。検出最大幅1.8m、検出深さ25cmで、埋土は褐色粘質土、下層は灰色細砂である。土師器片、弥生土器片と思われる小片が出土した。

### 神田北99-3、4区（図版11-4、5）

神田北遺跡内中央部に位置する東西約5m、南北26mのトレンチである。中央で分割し二回に分けて調査した。北半部が3区、南半部が4区である。旧耕土を除去した段階で、溝、土坑等を検出した。検出面のベース土は地山土層の黄色粘土もしくは段丘レキ層である。3区に北端部は段丘レキ層の上部に茶褐色粘質土がうすく堆積しており、この層上面が遺構面となっている。

検出した土坑は平面形が不整形で検出深さが10cm未満のものが大半である。いずれの溝、土坑からも瓦器、土師器の小片のみ出土した。

第23図9-11は99-4区からの出土遺物の一部である。10は綠釉の高台部、9、11は須恵器である。

### 神田北98-1区

神田北遺跡内南部に位置する東西8～4m、南北約40mのトレンチである。トレンチ北半部は盛土層を除去すると地山土層である黄褐色シルトとなる。南半部は盛土、旧耕土を除去すると暗灰色シルトを主体とする層となり、南端では層厚さ40cmを測る。この層は中世以前の遺物のみを含み、トレンチ南端は当該期に沼状の落ち込みになっていたと思われる。

第23図6、7、12は98-1区からの出土遺物である。6は須恵器古墳時代の杯身、7は土師器壺口縁部、12は須恵器甕口縁部である。

### 神田北98-2区

神田北遺跡内南部に位置する東西約8m、南北10mのトレンチである。盛土、旧耕土を除去するとトレンチ北部に近世以降の整地層、南部は黄色粘土の地山層となり、遺構は検出されなかった。

## 第4章 まとめ

今回の発掘調査は狭小な面積のトレンチ調査であり、出土遺物はコンテナ20箱足らずであった。しかし弥生時代から中世に至る多彩な遺構を検出することができた。検出した遺構、出土遺物を各遺跡ごと、時代別にまとめたのが第4表である。3遺跡で検出した遺構・遺物は類似しており、ひとつの遺跡としてのまとまりを想定できる。

旧石器時代は神田北遺跡からはじめてナイフ形石器の出土をみた。あくまで遺物のみの出土であるが、旧石器はこれまで周辺地域では丘陵部か段丘低位面から出土していたが、今後段丘低位面よりさらに下位の地点より出土する可能性が高くなり、今後の資料の増加が期待されるものである。

押城寺遺跡で検出した弥生時代の遺構は、これまで神山北遺跡で検出されていた弥生時代後期の集落が北側に広がることを裏付けることになった。検出した遺構は溝であり、集落の北東限にあたると思われる。弥生式土器は各遺跡で少量ずつながら出土している。

今回の調査では宇保遺跡、押城寺遺跡から飛鳥時代の遺構を検出した。押城寺遺跡では多数の柱穴、宇保遺跡では土坑、井戸等を検出し、遺構内からまとまった遺物を発見した。池田市教育委員会の調査では今回の調査地より北東の地点で飛鳥時代の住居跡が検出されており、今回の発見とあわせると、当該期の集落域は南北300mの範囲を有すこととなる。

中世期、13世紀中頃の遺構・遺物は3遺跡全域から検出している。しかし遺跡名の由来となっている押城寺関係の遺構についてはまったく検出しなかった。

ここで改めて①3つの遺跡の立地、②発掘調査で検出した溝の主軸方向の二つの視点から3遺跡のまとまりについて検討してみる。

第2章第1節でも記述したように、3遺跡は宇保段丘と呼称される低位段丘上に立地する。第25図は土地条件図をもとに作成した地形分類図である。この図を見ると、宇保段丘の西側は猪名川沿いの沖積地が形成されている。段丘の北西部は、現在でも段丘の縁辺に沿って猪名川に合流する小河川が存在し、かつてはわずかながらも沖積地との間に崖があったのではないかと想定

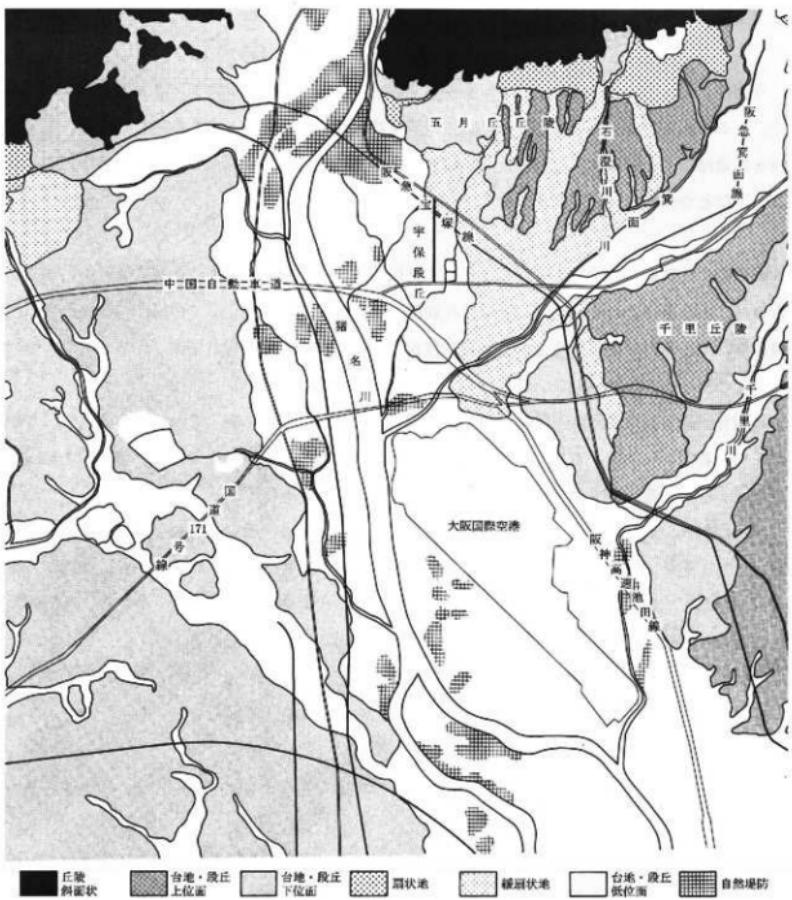
	旧石器時代	縄文時代	弥生時代(後期)	古墳時代	飛鳥時代	奈良・平安時代	中世
押城寺遺跡	×	×	○	×	○	△	○
宇保遺跡	×	△	○	×	○	×	○
神田北遺跡	○	×	×	○	△	△	○

\*遺構・遺物が出土した場合—○

遺物のみ出土した場合—○

その時代の可能性が高いものが出土—△

第4表 時代別 遺構・遺物検出状況



第25図 調査地周辺地域地形分類図

できる。

段丘の東側は箕面川等により、開析を受けている。地形分類図をみると、現在の阪急宝塚線が通過する地点より北東部は現地形をとどめないほどの変化があったと思われる。現在では扁状地状緩斜面が広がり段丘と化している。調査範囲のトレンチでも、阪急宝塚線より北側のトレンチの上層観察では第V層の地山土層（黄色粘土～褐灰色砂礫層）上面の標高が低くなっていくのが認められた。

このように3遺跡が立地していた宇保段丘は北東から南西に緩やかに傾斜する安定した台地であり、ここに集落が営まれたのは当然の結果といえよう。弥生時代には猪名川沿いの沖積地を生

産域とする集団が台地上を居住域としたと思われる。台地上の中心地は神田北遺跡の範囲内にあったと考えられる。古墳時代の実態は不明であるが、台地の西側縁辺、猪名川を望む位置に、宇保猪名津彦神社古墳、脇塚古墳の2基の古墳が築かれている。2基の古墳は共に墳丘は失われているが、古墳の可能性が高いものである。飛鳥時代には集落の中心地は禪城寺遺跡の範囲内である台地の北部に移ったと思われる。

ここで今回の発掘調査で検出した溝の主軸方向を検討してみる。禪城寺遺跡で検出した弥生時代後期の溝は、北東→南西方向に主軸を取る。この溝は地形の傾斜に沿って自然に流れていたと考えられる。又、同じく禪城寺遺跡で検出した飛鳥（奈良）時代の大溝は北西→南東方向に主軸を取っており、これは地形の変化点（等高線）にそって流れていたと考えられる。この時代までは水の流れを大幅に変えるほど台地上は開拓されていなかったと考えられる。地形を利用した治水が行われていたと考えられる。

これに対し、中世（13世紀）に入ると宇保遺跡で主軸をほぼ正南北にとる大溝が検出される。この大溝は主軸方向から、条里制地割にしたがって開削されたと推定される。氾濫や洪水に対してより安全な耕地の開発が台地上全体に進められた結果ではないかと思われる。文献資料に見られる呉庭莊はおそらくとも11世紀前半にはじまっていたと推定されているが、多くはないが3遺跡とも平安時代に相当する時期の遺物も出土しており、そのころから開発がはじめられたのではないかと思われる。今後の資料の増加を願ってまとめを終わりたい。

# 報告書抄録

ふりがな	ぜんじょうじ・うほ・こうだきたいせき
書名	禪城寺・宇保・神田北遺跡
副書名	
卷次	
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2001-7
編著者名	藤田道子
編集機関	大阪府教育委員会
所在地	〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 TEL06-6941-0351
発行年月日	2002年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'"	東経 °'"	調査期間	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ぜんじょうじいせき 禪城寺遺跡	池田市 城南2丁目・ 宇保町	27204	58	34 48 49	135 26 3	平成10年 1月20日 ～平成13年 3月28日	1339	道路拡幅
うほいせき 宇保遺跡	池田市 宇保町・ 八王子1丁目	27204	57	34 48 43	135 26 3	平成11年 12月10日 ～平成13年 3月16日	277	道路拡幅
こうだきたいせき 神田北遺跡	池田市 神田1・2丁目・ 八王子1・2丁目	27204	50	34 48 35	135 26 3	平成11年 2月8日 ～平成12年 1月28日	565	道路拡幅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
禪城寺遺跡	集落	弥生時代後期・ 飛鳥時代・中世	土坑・柱穴	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・ 瓦	
宇保遺跡	集落	飛鳥時代・中世	井戸・土坑・ 大溝	土師器・須恵器・ 瓦器	
神田北遺跡	集落	中世	大溝	ナイフ型石器・ 土師器・須恵器・ 瓦器	

# 図 版



1. 禅城寺 97-1 区全景（南から）



2. 禅城寺 97-2 区全景（北から）



3. 禅城寺 97-3 区全景（北から）



1. 禅城寺 98-2区  
北半部全景  
北から



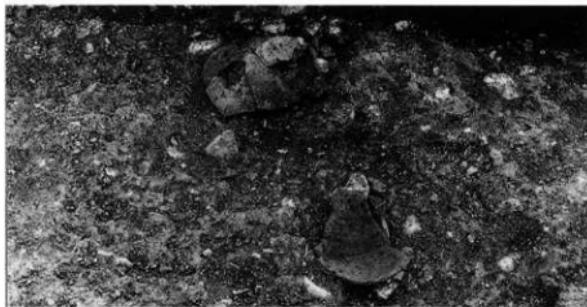
2. 禅城寺 98-4区  
北半部全景  
南から



3. 禅城寺 98-4区  
南半部全景  
南から



1. 禅城寺 98-3 区南半部全景 南から



2. 禅城寺 98-3 区  
溝 1 内土器出土状況  
西から



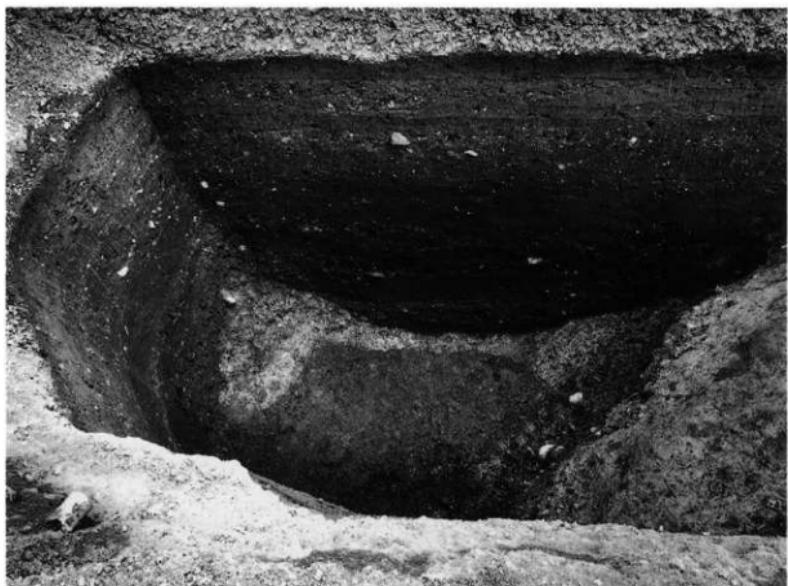
3. 禅城寺 98-3 区  
溝 1 埋土土層断面



1. 禅城寺 98-5 区全景 南から



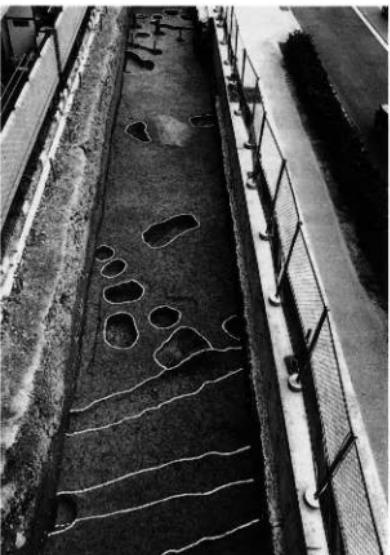
2. 禅城寺 98-7 区全景 南から



3. 禅城寺 98-5 区大溝埋土土層断面



1. 禅城寺 98-6区全景 南から



2. 禅城寺 98-6区全景 北から



3. 禅城寺 98-6区ピット1土層断面遺物出土状況



4. 禅城寺 98-6区ピット15土層断面遺物出土状況



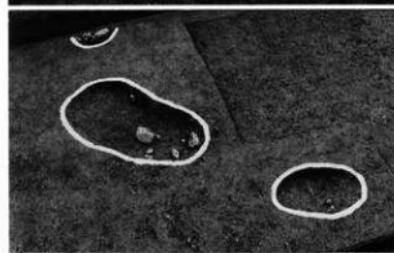
5. 禅城寺 98-6区ピット9、10土層断面



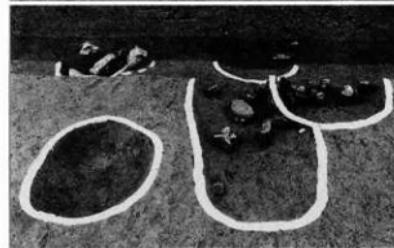
6. 禅城寺 98-6区ピット6土層断面



1. 禅城寺 00-1 区  
全景  
南から



2. 禅城寺 00-1 区  
土坑 6・7 遺物出土状況



3. 禅城寺 00-1 区  
土坑 1・2・3・4・8 遺物出土状況



1. 禅城寺 99-1区全景 北から



2. 禅城寺 00-2区全景 北から



3. 禅城寺 00-3区全景 南から



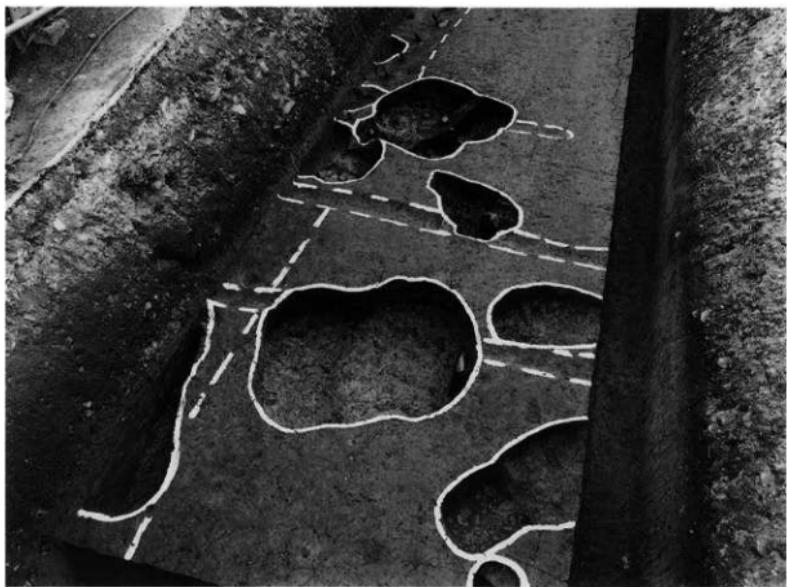
5. 宇保 00-2区全景 南から



4. 宇保 00-1区全景 北から



1. 宇保 99-1 区全景 南から



2. 宇保 99-1 区北半部 北から



1. 宇保 99-1 区  
土坑 5  
遺物出土狀況



2. 宇保 99-1 区  
土坑 6  
遺物出土狀況



3. 宇保 99-1 区  
土坑 7  
遺物出土狀況



1. 宇保 99-2 区  
全景  
北から



2. 宇保 99-2 区  
土坑 1  
遺物出土状況



3. 宇保 99-3 区  
全景 南から



1. 神田北 99-1 区 全景 北から



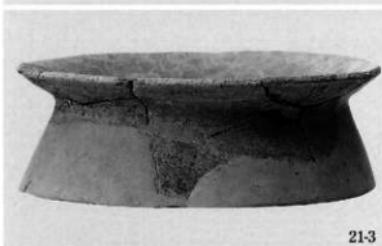
3. 神田北 99-3 区 全景 南から



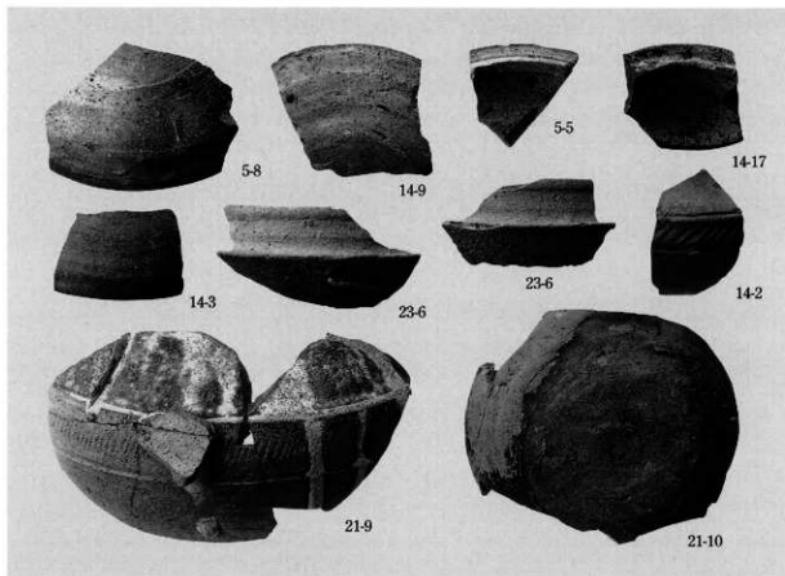
2. 神田北 99-2 区 全景 南から



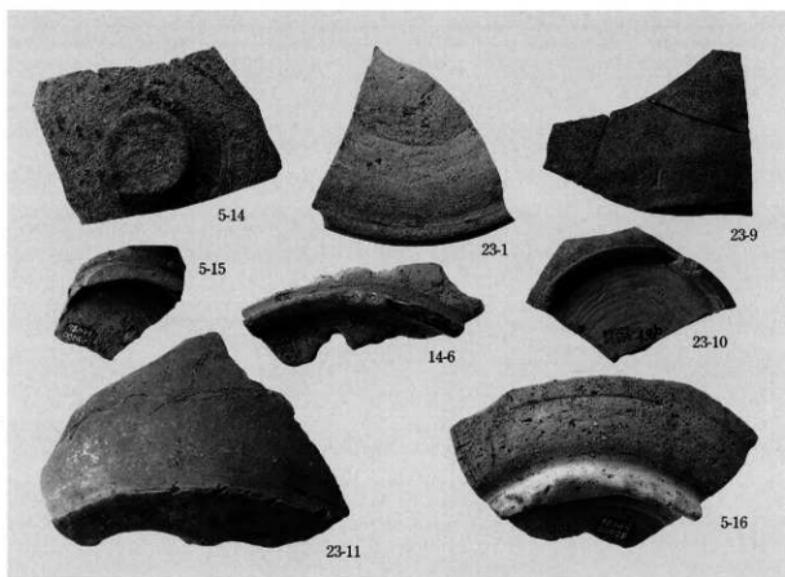
4. 神田北 99-4 区  
全景 北から



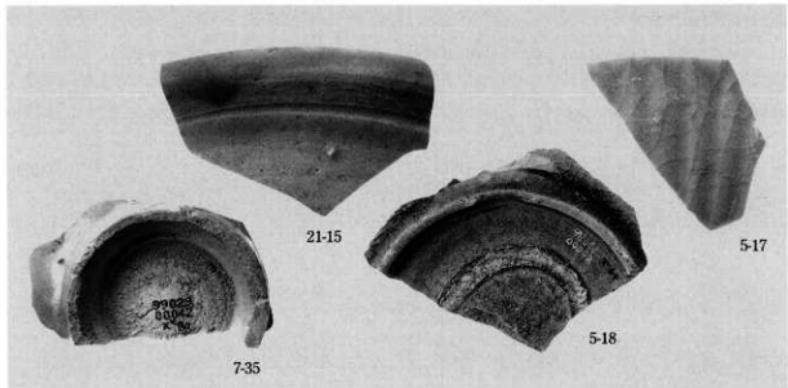
禅城寺 98-3 区 (5-12) 98-6 区 (5-22・23) 宇保 99-1 区 (14-5) 99-2 区 (21-3・4・7) 出土遺物



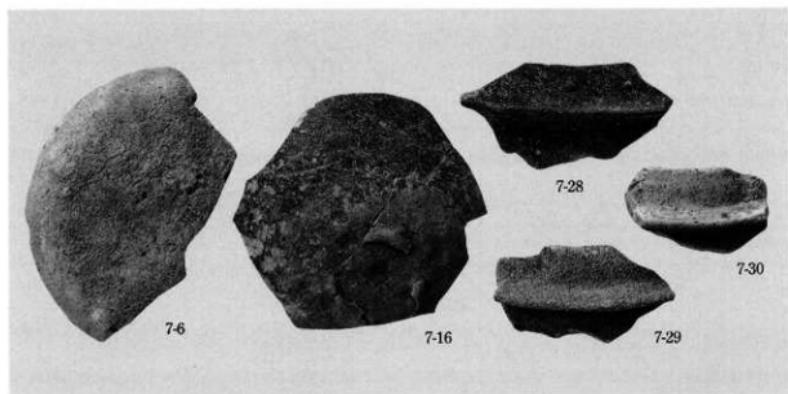
禅城寺 97-3 区 (5-5) 98-3 区 (5-8) 宇保 99-1 区 (14-2・3) 99-2 区 (21-9・10) 99-3 区 (14-17)  
00-2 区 (14-9) 神田北 98-1 区 (23-6) 出土須恵器



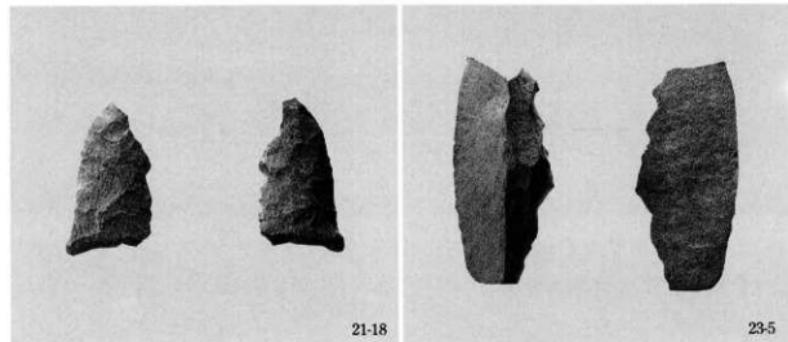
禅城寺 98-7 区 (5-14・15) 宇保 00-1 区 (14-6) 神田北 99-1 区 (23-1) 99-4 区 (23-9・10) 出土須恵器



神田北 98-7 区 (5-17・18) 榛城寺 99-1 区 (7-35) 宇保 99-2 区 (21-15) 出土磁器



榛城寺 00-1 区出土土器



宇保 99-2 区出土打製石鏽

神田北 99-1 区出土ナイフ型石器

禅城寺・宇保・神田北遺跡  
大阪府埋蔵文化財発掘調査報告 2001-7

発行 大阪府教育委員会  
〒540-8571  
大阪市中央区大手前2丁目  
TEL 06-6941-0351  
発行日 2002年3月29日  
印刷 永済印刷(株)  
門真市柳田町3番2号  
TEL 06-6902-7201

